

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季ごとにアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名 (1 回答) を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所 (10 地点)

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬季：令和 4 年 1 月 2 日～令和 4 年 3 月 12 日
- ・ 春季：令和 4 年 4 月 30 日～令和 4 年 5 月 21 日
- ・ 夏季：令和 4 年 7 月 9 日～令和 4 年 8 月 21 日
- ・ 秋季：令和 4 年 10 月 9 日～令和 4 年 11 月 12 日

※ 1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

- ・ 冬季：モネの庭、土佐和紙工芸村 (各 2 日間)
- ・ 春季：アンパンマンミュージアム (各 2 日間)
- ・ 夏季：四万十川、土佐和紙工芸村、高知城 (各 2 日間)
- ・ 秋季：アンパンマンミュージアム、土佐和紙工芸村 (各 2 日間)

● 調査結果の概要

「2泊3日」、「3泊4日」が過去4年で最大。県内旅行日数は前年と同じ2.1日。

日帰り客と宿泊客の割合（P17：表3-1）は、「2泊3日」が18.3%、「3泊4日」が5.2%と過去4年の調査を通じて最大となり、「日帰り」が31.2%で最小となった。前年比では、「2泊3日」、「3泊4日」、「5泊6日以上」が増加し、その他の旅行形態が減少となっている。

県内旅行の平均日数（P24：図5-1）は前年に続き2.1日となっている。主要な発地ブロックでは「関東」が増加、「中国」「四国」が横ばい、「近畿」が減少となっている。

「関東」、「甲信・東海」からの入込が過去4年で最大。近隣3ブロックが減少。

発地ブロック別入込割合（P20：表4-1）は、「関東」が16.0%、「甲信・東海」が6.5%と過去4年の調査を通じて最大となり、「四国」が31.4%で最小となった。前年比では、「関東」は1.4ポイント増加した一方で、「近畿」「中国」「四国」の近隣3ブロック合計で3.0ポイントの減少となっている。

すべての年代で「家族」旅行が増加、「1人」旅は減少。

旅行形態割合（P29：表8-1）は、前年比で「家族」が6.5ポイント増加した一方で、「一人旅」は4.9ポイント減少となっている。同行者数割合（P30：表8-2）は、前年比で「4～5人」が3.3ポイント増加の18.2%となっている。

県内平均消費額は、前年比で126円減少の26,076円。

県内平均消費額（P35：図10-1）は、前年比で126円減少の26,076円となった。四季別（P38：表10-2）では、冬季が2,513円、秋季が1,766円増加した一方で、春季が1,071円、夏季が2,889円の減少となっている。

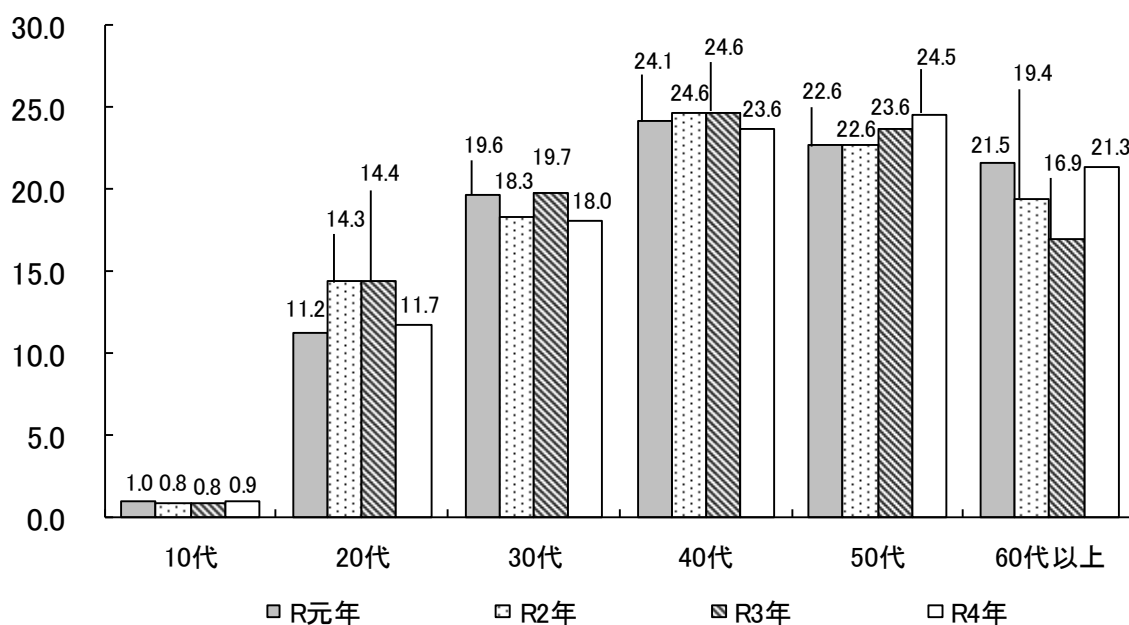
費目ごとの変動（P35：図10-1参考①）は、「交通費」、「土産代」が前年比で増加しており、「交通費」については、2年連続で増加している。

2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R元年~R4年]

	R元年 (n=2,912)	R2年 (n=2,656)	R3年 (n=2,460)	R4年 (n=2,993)	対前年比 R4年/R3年
10代	30	20	20	28	112.5%
	1.0	0.8	0.8	0.9	
20代	325	379	354	350	81.3%
	11.2	14.3	14.4	11.7	
30代	570	487	484	540	91.4%
	19.6	18.3	19.7	18.0	
40代	702	654	604	706	95.9%
	24.1	24.6	24.6	23.6	
50代	658	601	581	733	103.8%
	22.6	22.6	23.6	24.5	
60代以上	627	515	417	636	126.0%
	21.5	19.4	16.9	21.3	

(図 2-2) 年代別旅行者割合(%) [R元年~R4年]



(表 2-1 参考①) 年代別性別旅行者割合(上段:件 下段:%) [R2 年~R4 年]

	R2 年 (n=2,656)		R3 年 (n=2,460)		R4 年 (n=2,993)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10 代	13	7	9	11	9	19
	53.3	46.7	45.0	55.0	32.1	67.9
20 代	252	127	233	121	218	132
	52.6	47.4	65.8	34.2	62.3	37.7
30 代	316	171	333	151	324	216
	63.9	36.1	68.8	31.2	60.0	40.0
40 代	445	209	419	185	454	252
	65.2	34.8	69.4	30.6	64.3	35.7
50 代	411	190	420	161	499	234
	68.7	31.3	72.3	27.7	68.1	31.9
60 代以上	383	132	313	104	427	209
	64.9	35.1	75.1	24.9	67.1	32.9
計	1,820	836	1,727	733	1,931	1,062
	64.1	35.9	70.2	29.8	64.5	35.5

年代別旅行者割合をみると、50代が24.5%と最も多く、次いで40代が23.6%、60代以上が21.3%と続いている。前年と比べ10代、50代、60代以上が増加し、20代、30代、40代が減少している。

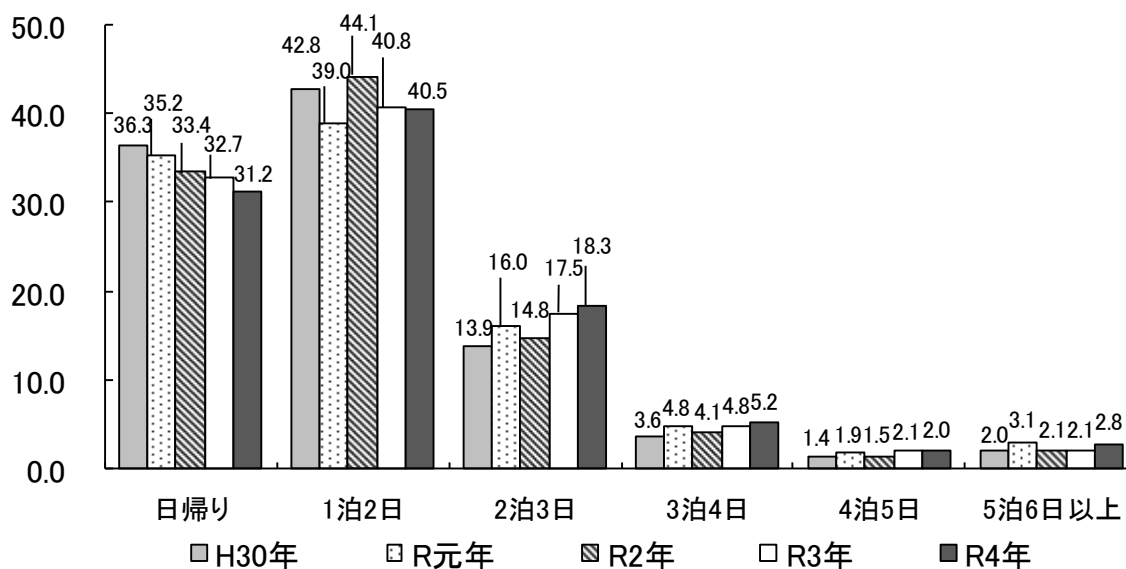
男女比は、男性が64.5%、女性が35.5%となっており、10代で女性の割合が、男性の割合を上回っており、その他の年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 年次別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [H30年~R4年]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
H30年	964	1,138	370	97	36	52
(n=2,657)	36.3	42.8	13.9	3.6	1.4	2.0
R元年	1,026	1,135	466	140	54	91
(n=2,912)	35.2	39.0	16.0	4.8	1.9	3.1
R2年	888	1,172	393	108	39	56
(n=2,656)	33.4	44.1	14.8	4.1	1.5	2.1
R3年	805	1,003	432	118	51	51
(n=2,460)	32.7	40.8	17.5	4.8	2.1	2.1
R4年	934	1,211	549	155	61	83
(n=2,993)	31.2	40.5	18.3	5.2	2.0	2.8

(図 3-2) 年次別日帰り客・宿泊客割合(%) [H30年~R4年]



日帰り客と宿泊客の割合をみると、「1泊2日」が40.5%と最も多く、次いで「日帰り」が31.2%、「2泊3日」が18.3%と続いている。

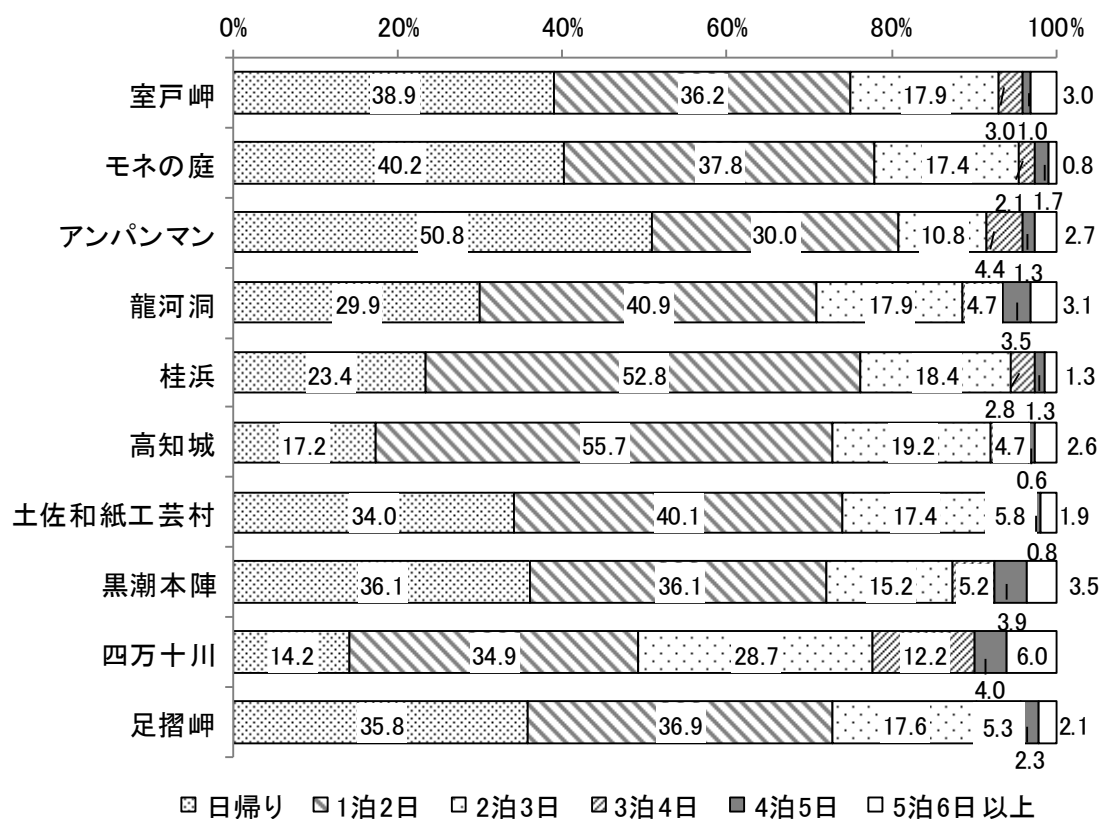
前年と比べ「2泊3日」が0.8ポイント、「5泊6日以上」が0.7ポイントなどと増加しており、「日帰り」が1.5ポイント、「1泊2日」が0.3ポイント減少している。平成30年度の調査から通してみると、「2泊3日」と「3泊4日」の割合は過去最大、「日帰り」は過去最小となっている。

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R3年、R4年]

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	R3年	164	189	50	19	14	18
		36.1	41.6	11.0	4.2	3.1	4.0
	R4年	192	253	100	42	21	29
		30.1	39.7	15.7	6.6	3.3	4.6
春	R3年	184	217	121	29	10	12
		32.1	37.9	21.1	5.1	1.7	2.1
	R4年	264	325	170	35	19	23
		31.6	38.9	20.3	4.2	2.3	2.7
夏	R3年	198	298	163	46	20	11
		26.9	40.5	22.1	6.3	2.7	1.5
	R4年	250	307	145	39	12	20
		32.3	39.7	18.8	5.0	1.6	2.6
秋	R3年	259	299	98	24	7	10
		37.2	42.9	14.1	3.4	1.0	1.4
	R4年	228	326	134	39	9	11
		30.5	43.7	17.9	5.2	1.2	1.5

四季別データを前年と比べると、冬季は「2泊3日」が4.7ポイント、「3泊4日」が2.4ポイントの増加、「日帰り」が6.0ポイント、「1泊2日」が1.9ポイントの減少などとなっている。春季は「1泊2日」が1.0ポイント、「4泊5日」と「5泊6日以上」が0.6ポイントの増加、「3泊4日」が0.9ポイント、「2泊3日」が0.8ポイントの減少となっている。夏季は「日帰り」が5.4ポイント、「5泊6日以上」が1.1ポイントの増加、「2泊3日」が3.3ポイント、「3泊4日」が1.3ポイントなどの減少となっている。秋季は「1泊2日」以上の項目が増加、「日帰り」が6.7ポイントの減少などとなっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [R4 年]



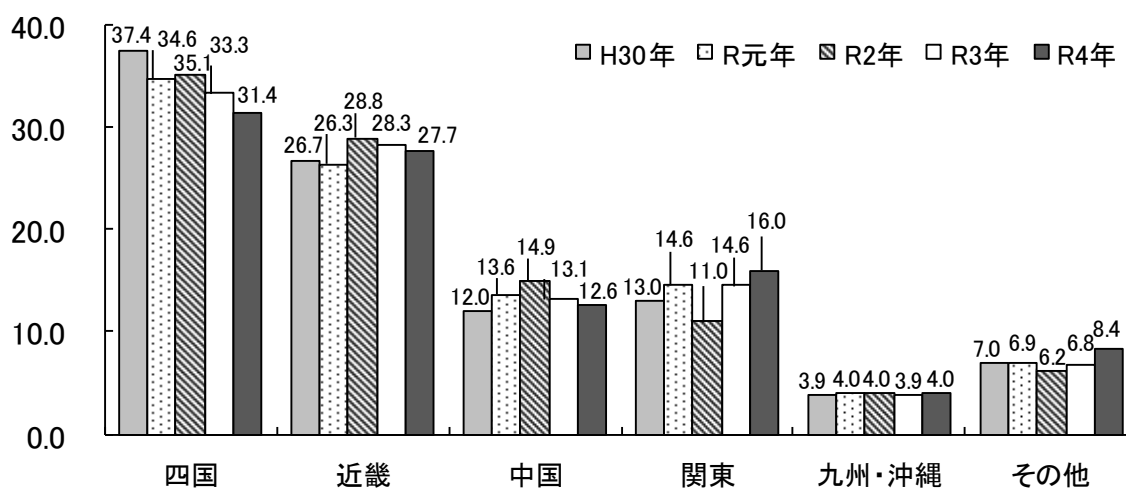
日帰り客と宿泊客の割合を調査地別にみると、「日帰り」の割合はアンパンマンミュージアムが 50.8%と最も多く、次いでモネの庭が 40.2%、室戸岬が 38.9%と続いている。また、「1泊2日」は高知城が 55.7%と最も多く、次いで桂浜が 52.8%、龍河洞が 40.9%と続いている。そのほか、「2泊3日」以上の項目は四万十川が最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [H30 年～R4 年]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	その他
H30 年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	186 7.0
R 元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	200 6.9
R2 年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	166 6.2
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	166 6.8
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	250 8.4

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合(%) [H30 年～R4 年]



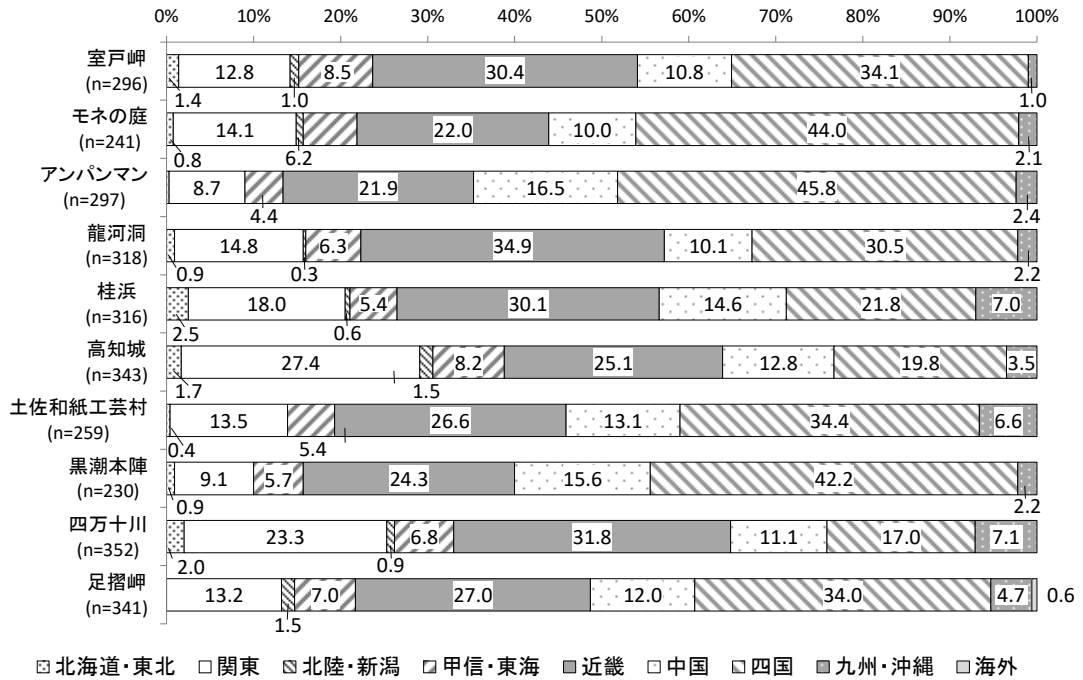
発地ブロック別入込割合をみると、四国が 31.4%と最も多く、次いで近畿が 27.7%、関東が 16.0%と続いている。

前年と比べると、その他のブロックが 1.6 ポイント、関東が 1.4 ポイント増加しており、四国が 1.9 ポイント、近畿が 0.6 ポイント、中国が 0.5 ポイント減少している。平成 30 年度の調査から通してみると、関東とその他のブロックは過去最大となっている。その一方で、四国の割合は過去最小となっている。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%)[H30~R4 年 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	甲信・ 東海	北陸・ 新潟	東北	北海道	海外
H30 年 (n=2,657)	995 37.4	710 26.7	318 12.0	345 13.0	103 3.9	123 4.6	20 0.8	20 0.8	17 0.6	6 0.2
R 元年 (n=2,912)	1,008 34.6	767 26.3	396 13.6	424 14.6	117 4.0	127 4.4	21 0.7	18 0.6	23 0.8	11 0.4
R2 年 (n=2,656)	933 35.1	764 28.8	395 14.9	292 11.0	106 4.0	121 4.5	23 0.9	11 0.4	10 0.4	1 0.0
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	123 5.0	16 0.7	13 0.5	14 0.6	0 0.0
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	193 6.5	21 0.7	17 0.6	17 0.6	2 0.1

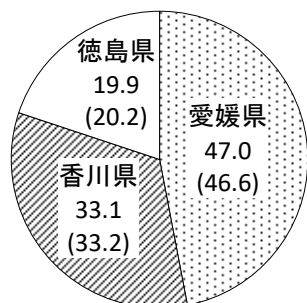
(図 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック別入込割合(%) [R4 年]



調査地別に発地ブロック別入込割合をみると (P21: 図 4-1 参考②、P23: 表 4-1 参考③)、高知城は関東・近畿、四万十川は近畿・関東、龍河洞と桂浜は近畿・四国、その他の6地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、アンパンミュージアムが84.2%と最も多く、次いで黒潮本陣が82.1%、モネの庭が76.0%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が55.1%と最も多く、次いで高知城が52.5%、龍河洞が49.7%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国 (%)

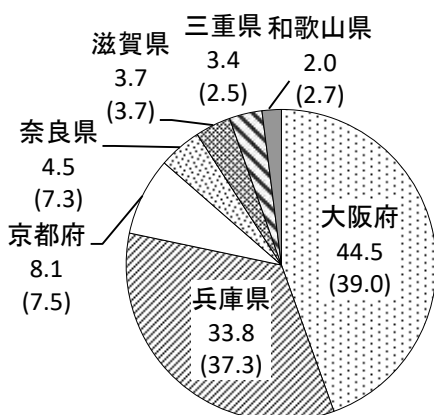


()内の数値は R3 年

前年と比べ、愛媛が 0.4 ポイント増加しており、徳島が 0.3 ポイント、香川が 0.1 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で一位、またアンパンマンミュージアムなど 5 つの調査地において入込割合の一位となっている。香川は全体の三位、龍河洞など 4 地点で二位となっている。徳島は全体の六位、室戸岬で一位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿 (%)

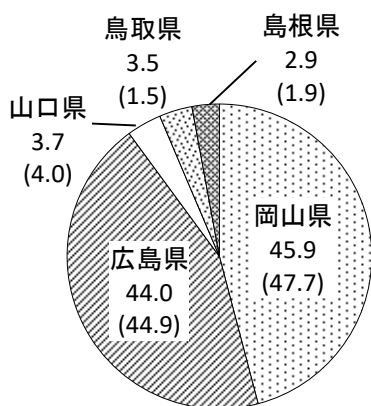


()内の数値は R3 年

前年と比べ、大阪が 5.5 ポイント、三重が 0.9 ポイント、京都が 0.6 ポイント増加しており、兵庫が 3.5 ポイント、奈良が 2.8 ポイント、和歌山が 0.7 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 78.3%と、近畿ブロックの四分之三を占めている。

大阪は全体の入込割合で二位、四万十川など 3 地点で一位、足摺岬など 4 地点で二位となっており、兵庫は全体の四位、四万十川で二位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国 (%)



()内の数値は R3 年

前年と比べ、鳥取が 2.0 ポイント、島根が 1.0 ポイント増加しており、岡山が 1.8 ポイント、広島が 0.9 ポイント、山口が 0.3 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 89.9%と、中国ブロックの大半を占めている。

岡山は全体の入込割合で七位、広島は全体の八位となっている (P23 : 表 4-1 参考③)。

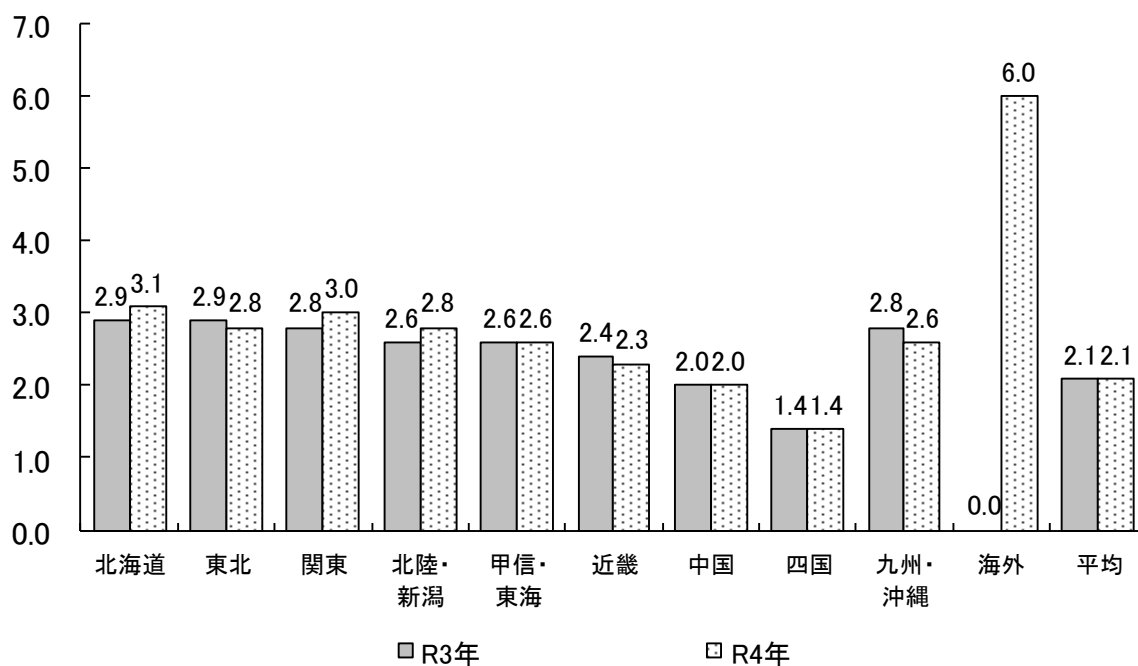
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県入込割合(件) [R4年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位	
県外合計	296	241	297	318	316	343	259	230	352	341	2,993	-	
北海道・東北	北海道	2	1	1	2	3	3	1	0	4	0	17	
	青森県	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	4	
	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	宮城県	2	0	0	0	2	0	0	1	1	0	6	
	秋田県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	山形県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	福島県	0	1	0	1	0	3	0	1	1	0	7	
北海道・東北計	4	2	1	3	8	6	1	2	7	0	34	-	
関東	茨城県	0	0	1	3	3	0	1	0	2	2	12	
	栃木県	0	1	1	1	3	1	0	0	0	2	9	
	群馬県	1	1	0	0	0	5	1	1	2	1	12	
	埼玉県	8	6	6	6	6	18	4	2	8	6	70	11
	千葉県	6	5	2	6	2	10	5	2	9	10	57	
	東京都	8	14	13	15	33	43	15	14	36	10	201	5
	神奈川県	15	7	3	16	10	17	9	2	25	14	118	10
関東計	38	34	26	47	57	94	35	21	82	45	479	-	
北陸・新潟	新潟県	1	1	0	0	0	2	0	0	0	2	6	
	富山県	0	0	0	0	1	2	0	0	2	1	6	
	石川県	2	1	0	0	1	1	0	0	1	1	7	
	福井県	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	2	
北陸・新潟計	3	2	0	1	2	5	0	0	3	5	21	-	
甲信・東海	山梨県	0	0	0	0	0	0	1	3	1	5		
	長野県	2	0	0	1	0	1	1	2	1	9		
	岐阜県	4	2	3	2	3	1	2	0	3	4	24	
	静岡県	3	1	2	1	3	4	3	2	6	6	31	
	愛知県	16	12	8	16	11	22	8	8	11	12	124	9
甲信・東海計	25	15	13	20	17	28	14	13	24	24	193	-	
近畿	三重県	2	4	0	7	3	2	3	2	4	1	28	
	滋賀県	3	1	4	7	6	3	1	2	3	1	31	
	京都府	10	1	7	9	8	6	6	2	10	8	67	
	大阪府	39	27	25	44	39	38	35	28	47	47	369	2
	兵庫県	28	19	25	38	34	31	18	21	37	29	280	4
	奈良県	7	1	1	3	5	4	3	0	8	5	37	
和歌山県	1	0	3	3	0	2	3	1	3	1	17		
近畿計	90	53	65	111	95	86	69	56	112	92	829	-	
中国	鳥取県	0	1	3	4	3	1	0	0	1	0	13	
	島根県	0	0	0	4	1	2	1	0	2	1	11	
	岡山県	12	14	26	13	20	23	11	21	15	18	173	7
	広島県	18	8	20	11	20	15	20	14	20	20	166	8
	山口県	2	1	0	0	2	3	2	1	1	2	14	
中国計	32	24	49	32	46	44	34	36	39	41	377	-	
四国	徳島県	49	26	26	23	6	12	7	8	8	22	187	6
	香川県	26	31	41	42	26	24	22	38	21	40	311	3
	愛媛県	26	49	69	32	37	32	60	51	31	54	441	1
四国計	101	106	136	97	69	68	89	97	60	116	939	-	
九州・沖縄	福岡県	2	3	4	3	11	6	9	2	16	8	64	
	佐賀県	0	0	0	1	1	1	2	0	1	0	6	
	長崎県	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	4	
	熊本県	1	1	0	0	4	1	3	0	1	1	12	
	大分県	0	0	1	2	2	2	1	2	4	4	18	
	宮崎県	0	1	0	1	1	1	0	0	1	0	5	
	鹿児島県	0	0	1	0	1	0	1	0	1	2	6	
沖縄県	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	4		
九州・沖縄計	3	5	7	7	22	12	17	5	25	16	119	-	
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	-	
高知県	104	159	103	82	84	57	141	170	48	59	1,007	-	

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [R3 年、R4 年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ、増減なしの 2.1 日となっている。

発地ブロック別にみると、北海道が 3.1 日で最も多く、次いで関東が 3.0 日、東北と北陸・新潟が 2.8 日、甲信・東海と九州・沖縄が 2.6 日と続いている。前年と比べ、北海道や関東などの 3 地点が増加しており、甲信・東海や中国などの 3 地点は横ばい、東北や近畿などの 3 地点は減少となっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔H30～R4年〕

	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
10代	2.2	2.1	2.1	2.1	2.6
20代	2.1	2.2	2.0	2.2	2.2
30代	2.0	2.1	2.1	2.2	2.3
40代	2.0	2.3	2.1	2.1	2.1
50代	1.9	2.0	2.0	2.0	2.1
60代以上	1.9	2.0	2.0	2.0	2.2
全体	2.0	2.1	2.0	2.1	2.1

年代別の県内旅行日数は、10代が2.6日、30代が2.3日、20代と60代以上が2.2日、その他の年代が2.1日となっている。

前年と比べ、10代が0.5日、60代以上が0.2日、30代と50代が0.1日増加、その他の年代は横ばいとなっている。

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [R2年～R4年]

		自然見物 ・町歩き	休養 ・慰安	イベント	アウトドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場巡り	買い物	名所旧跡 観光施設	なんとなく	ワーケー ション	帰省 ・仕事	その他
1人	R2年	18.1	1.9	1.4	2.2	0.5	9.4	8.6	1.6	19.1	21.3	0.0	14.3	1.6
	R3年	17.0	1.8	4.5	2.5	0.4	11.2	8.0	0.0	15.8	19.6	0.0	17.0	2.2
	R4年	23.3	0.5	1.3	5.8	0.7	7.8	5.3	1.3	19.5	20.8	0.2	11.5	2.0
家族	R2年	18.9	4.2	0.6	4.2	0.2	20.3	5.4	3.2	28.7	3.7	0.0	9.6	1.0
	R3年	25.5	4.9	0.6	4.7	0.4	20.0	4.3	2.9	24.0	3.5	0.0	8.6	0.6
	R4年	24.4	3.0	0.7	3.6	0.6	19.4	3.5	2.3	25.9	4.3	0.0	11.5	0.8
友人 知人	R2年	24.1	2.6	0.0	7.7	0.6	24.9	2.9	1.4	18.6	14.6	0.0	2.3	0.3
	R3年	22.7	1.8	0.8	4.8	0.3	31.6	2.0	0.3	16.6	13.0	0.0	5.6	0.5
	R4年	24.9	2.1	1.1	6.0	1.1	27.5	1.4	0.9	17.2	11.9	0.0	5.0	0.9
団体	R2年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0
	R3年	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	R4年	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	20.0	0.0	10.0	30.0	10.0
その他	R2年	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	45.4	0.0	0.0	27.3	0.0
	R3年	15.0	0.0	0.0	10.0	0.0	15.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	40.0	10.0
	R4年	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	46.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	7.7
全体	R2年	19.5	3.7	0.6	4.3	0.3	19.3	5.5	2.7	26.1	7.6	0.0	9.4	1.0
	R3年	23.4	3.9	1.3	4.4	0.4	20.2	4.6	1.9	21.1	7.9	0.0	10.0	0.9
	R4年	24.3	2.5	0.8	4.3	0.7	19.1	3.4	2.0	23.6	7.5	0.1	10.7	1.0

旅行目的の全体割合をみると、「自然見物・町歩き」が前年から0.9ポイント増加の24.3%で最も多く、次いで「名所旧跡・観光施設」が2.5ポイント増加の23.6%、「食べ物」が1.1ポイント減少の19.1%と続いている。

令和2年度の調査から通してみると、「自然見物・町歩き」、「スポーツ」、「帰省・仕事」、「ワーケーション」は過去最大、「休養・慰安」、「食べ物」、「神仏・霊場巡り」、「なんとなく」は過去最小となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、“一人旅”では、「自然見物・町歩き」が6.3ポイント増加、「帰省・仕事」が5.5ポイント減少となっている。“家族旅行”では、「帰省・仕事」が2.9ポイント増加、「休養・慰安」が1.9ポイント減少となり、“友人・知人との旅行”では、「自然見物・町歩き」が2.2ポイント増加、「食べ物」が4.1ポイント減少、“団体”では、「名所旧跡・観光施設」が20.0ポイント増加、「帰省・仕事」が20.0ポイント減少となっている。

7 入込利用交通機関割合

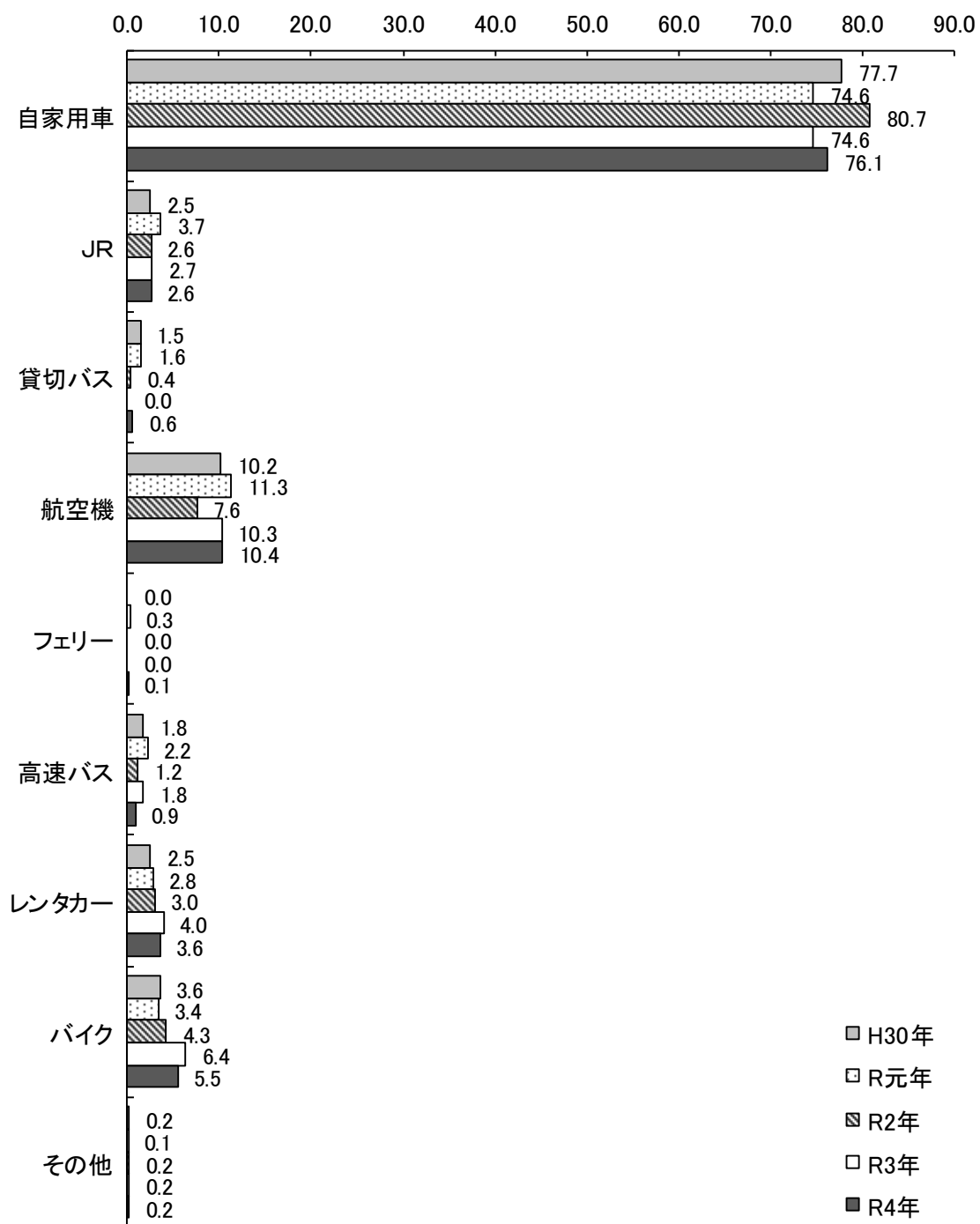
(表 7-1) 入込利用交通機関別割合(上段:件 下段:%) [H30~R4 年]

	自家用車	JR	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
H30 年	2,064	65	40	270	0	49	67	97	5
(n=2,657)	77.7	2.5	1.5	10.2	0.0	1.8	2.5	3.6	0.2
R 元年	2,173	106	46	330	8	66	82	98	3
(n=2,912)	74.6	3.7	1.6	11.3	0.3	2.2	2.8	3.4	0.1
R2 年	2,144	70	9	202	1	31	80	115	4
(n=2,656)	80.7	2.6	0.4	7.6	0.0	1.2	3.0	4.3	0.2
R3 年	1,834	67	1	254	0	43	98	157	6
(n=2,460)	74.6	2.7	0.0	10.3	0.0	1.8	4.0	6.4	0.2
R4 年	2,277	78	19	312	2	27	109	164	5
(n=2,993)	76.1	2.6	0.6	10.4	0.1	0.9	3.6	5.5	0.2

入込利用交通機関は、「自家用車」が前年から 1.5 ポイント増加の 76.1%で最も多く、次いで「航空機」が 0.1 ポイント増加の 10.4%、「バイク」が 0.9 ポイント減少の 5.5%と続いている。

平成 30 年度の調査から通してみると、「高速バス」は過去最小となっている。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [H30～R4 年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [R3 年、R4 年]

		1 人	家族	友人知人	団体	その他
10 代	R3 年 (n=20)	20.0	50.0	30.0	0.0	0.0
	R4 年 (n=28)	10.7	67.9	21.4	0.0	0.0
20 代	R3 年 (n=354)	20.9	27.4	50.6	0.3	0.8
	R4 年 (n=350)	17.1	33.7	47.7	0.9	0.6
30 代	R3 年 (n=484)	14.7	66.3	17.8	0.0	1.2
	R4 年 (n=540)	12.2	71.5	15.7	0.2	0.4
40 代	R3 年 (n=604)	15.4	74.7	8.6	0.5	0.8
	R4 年 (n=706)	11.5	78.9	8.6	0.3	0.7
50 代	R3 年 (n=581)	22.0	70.1	6.7	0.3	0.9
	R4 年 (n=733)	13.2	76.3	9.6	0.5	0.4
60 代以上	R3 年 (n=417)	18.7	73.9	7.2	0.0	0.2
	R4 年 (n=636)	14.5	77.8	7.5	0.0	0.2
全 体	R3 年 (n=2,460)	18.2	64.8	15.9	0.3	0.8
	R4 年 (n=2,993)	13.3	71.3	14.6	0.3	0.5

旅行形態割合をみると、「家族」が 71.3% で最も多く、次いで「友人知人」が 14.6%、「1 人」が 13.3%、「その他」が 0.5%、「団体」が 0.3% と続いている。

前年と比べ、「家族」が 6.5 ポイント増加しており、「1 人」が 4.9 ポイント、「友人知人」が 1.3 ポイント、「その他」が 0.3 ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20 代を除くすべての年代で「家族」が最も多く、20 代は「友人知人」が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [R3 年、R4 年]

		1 人	2～3 人	4～5 人	6～10 人	11 人以上
10 代	R3 年 (n=20)	20.0	50.0	20.0	10.0	0.0
	R4 年 (n=28)	10.7	50.0	28.6	10.7	0.0
20 代	R3 年 (n=354)	20.9	70.1	7.3	1.4	0.3
	R4 年 (n=350)	17.1	70.0	10.6	2.0	0.3
30 代	R3 年 (n=484)	14.7	57.4	25.6	2.1	0.2
	R4 年 (n=540)	12.2	58.0	26.3	3.5	0.0
40 代	R3 年 (n=604)	15.4	62.7	19.9	1.8	0.2
	R4 年 (n=706)	11.5	57.7	27.9	2.8	0.1
50 代	R3 年 (n=581)	22.0	66.3	10.0	1.7	0.0
	R4 年 (n=733)	13.2	71.6	13.0	1.9	0.3
60 代以上	R3 年 (n=417)	18.7	68.8	8.4	4.1	0.0
	R4 年 (n=636)	14.5	71.4	10.4	3.4	0.3
全 体	R3 年 (n=2,460)	18.2	64.5	14.9	2.3	0.1
	R4 年 (n=2,993)	13.3	65.4	18.2	2.9	0.2

同行者数割合をみると、「2～3 人」が 65.4%で最も多く、次いで「4～5 人」が 18.2%、「1 人」が 13.3%、「6～10 人」が 2.9%、「11 人以上」が 0.2%と続いている。

前年と比べ、「4～5 人」が 3.3 ポイント、「2～3 人」が 0.9 ポイント、「6～10 人」が 0.6 ポイント、「11 人以上」が 0.1%増加しており、「1 人」が 4.9 ポイント減少となっている。

年代別にみると、すべての年代で「2～3 人」が最も多くなっている。

(表 8-3) 年代別旅行形態・同行者数割合(件) [R4 年]

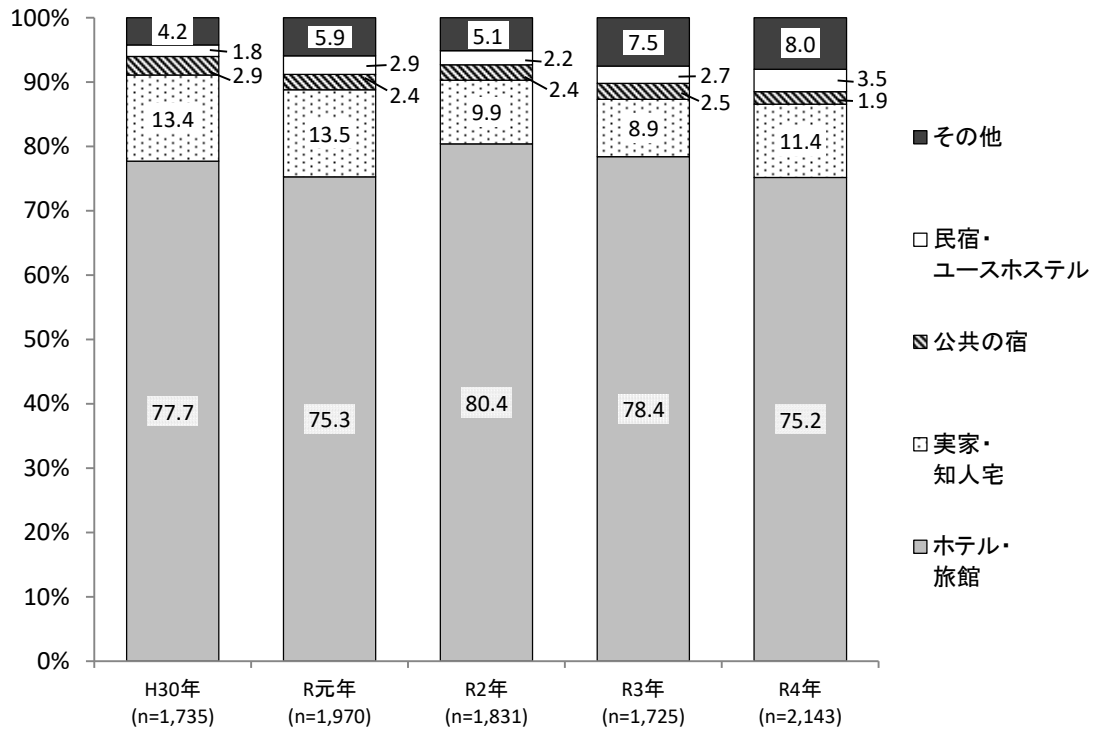
	1人	家族				友人知人				団体				その他			
		2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上	2~3人	4~5人	6~10人	11人以上
10代	3	8	8	3		6											
20代	60	93	23	2		149	13	5		1	1		1	2			
30代	66	235	135	16		76	7	2		1				1		1	
40代	81	351	188	18		53	7	1				1	1	3	2		
50代	97	474	77	8		50	15	4	1	1	1	1	1		2	1	
60代以上	92	423	51	19	2	31	14	3							1		

年代別に旅行形態と同行者数の関係を見ると、10代と20代を除くすべての年代は「2～3人の家族」が最も多く、10代は「2～3人の家族」と「4～5人の家族」、20代は「2～3人の友人知人」が最も多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [H30～R4 年]



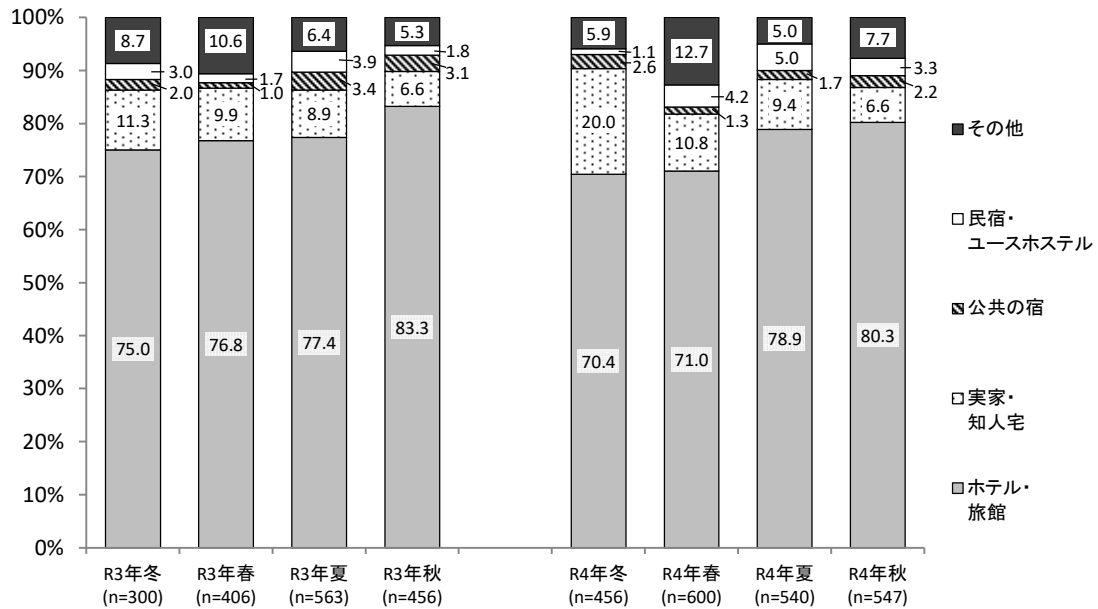
県内で利用された宿泊施設の割合は、「ホテル・旅館」が75.2%で最も多く、次いで「実家・知人宅」が11.4%、「その他」が8.0%、「民宿・ユースホステル」が3.5%、「公共の宿」が1.9%と続いている。

前年と比べ、「実家・知人宅」が2.5ポイント、「民宿・ユースホステル」が0.8ポイント、「その他」が0.5ポイント増加し、「ホテル・旅館」が3.2ポイント、「公共の宿」が0.6ポイント減少している。

平成30年度の調査から通してみると、「その他」と「民宿・ユースホステル」は過去最大、「ホテル・旅館」と「公共の宿」は過去最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [R3、R4 年]



四季別県内利用宿泊施設の割合をみると、「ホテル・旅館」の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、夏季を除くすべての調査時期で「ホテル・旅館」の割合が減少となっている。

前年と比べ、1.0ポイントを超えて変動している項目をみると、冬季は「実家・知人宅」が8.7ポイント増加し、「ホテル・旅館」が4.6ポイント、「その他」が2.8ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.9ポイント減少となっている。

春季は「民宿・ユースホステル」が2.5ポイント、「その他」が2.1ポイント増加し、「ホテル・旅館」が5.8ポイント減少となっている。

夏季は「ホテル・旅館」が1.5ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.1ポイント増加し、「公共の宿」が1.7ポイント、「その他」が1.4ポイント減少となっている。

秋季は「その他」が2.4ポイント、「民宿・ユースホステル」が1.5ポイント増加し、「ホテル・旅館」が3.0ポイント減少となっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [R3 年、R4 年]

		ホテル・ 旅館	実家・ 知人宅	公共の宿	民宿・ ユースホステル	その他
10 代	R3 年 (n=14)	57.1	28.6	7.1	0.0	7.1
	R4 年 (n=22)	63.6	31.8	0.0	0.0	4.6
20 代	R3 年 (n=279)	79.9	10.8	1.4	2.9	5.0
	R4 年 (n=280)	76.8	11.1	0.7	5.3	6.1
30 代	R3 年 (n=343)	79.0	12.2	1.5	2.6	4.7
	R4 年 (n=396)	71.4	15.7	2.3	3.0	7.6
40 代	R3 年 (n=428)	78.3	8.6	2.6	2.8	7.7
	R4 年 (n=476)	72.9	13.5	1.9	2.5	9.2
50 代	R3 年 (n=398)	79.9	6.0	2.3	2.8	9.1
	R4 年 (n=515)	74.6	10.1	2.1	3.7	9.5
60 代以上	R3 年 (n=263)	75.3	6.5	4.9	2.3	11.0
	R4 年 (n=454)	81.3	6.0	2.2	3.7	6.8

年代別利用宿泊施設割合をみると、すべての年代で「ホテル・旅館」が最も多くなっている。

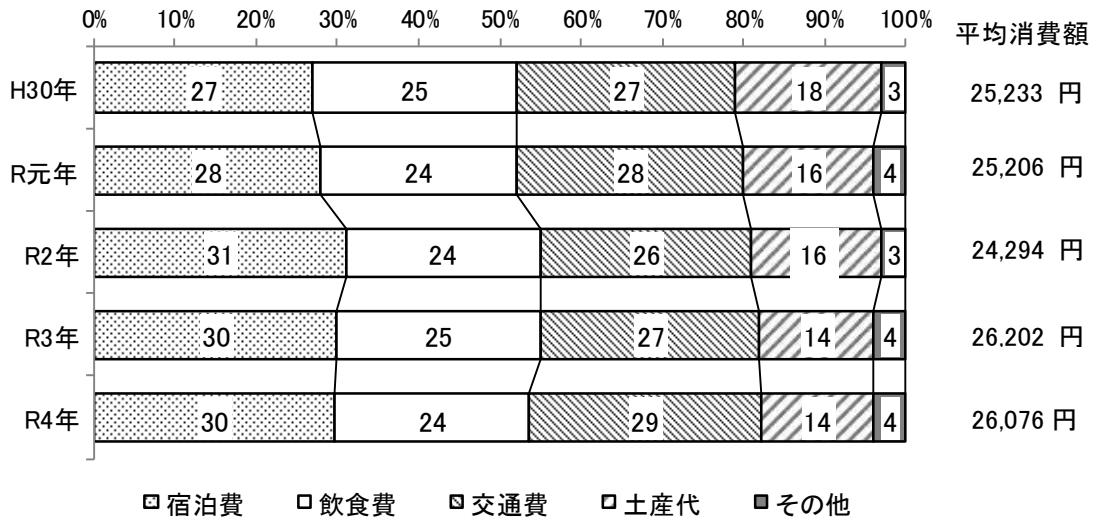
前年と比べ、5.0ポイントを超えて増加している項目は、10代と60代以上の「ホテル・旅館」となっている。その一方で減少している項目は、10代の「公共の宿」、30代、40代、50代の「ホテル・旅館」となっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [H30～R4 年]



県内消費額の年間平均金額は、前年と比べ 126 円減少の 26,076 円となっている。費目別で見ると、「宿泊費」が 30%と最も多く、次いで「交通費」が 29%、「飲食費」が 24%と続いている。

(表 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳(円) [R2 年～R4 年]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
R2 年	7,455	5,960	6,245	3,780	854	24,294
R3 年	7,996	6,465	7,134	3,686	921	26,202
R4 年	7,780	6,176	7,478	3,731	911	26,076

費目別の平均消費額を前年と比べると、「交通費」が 344 円、「土産代」が 45 円増加し、「飲食費」が 289 円、「宿泊費」が 216 円、「その他」が 10 円減少となっている。

令和 2 年度の調査から通してみると、「交通費」は過去最大となっている。

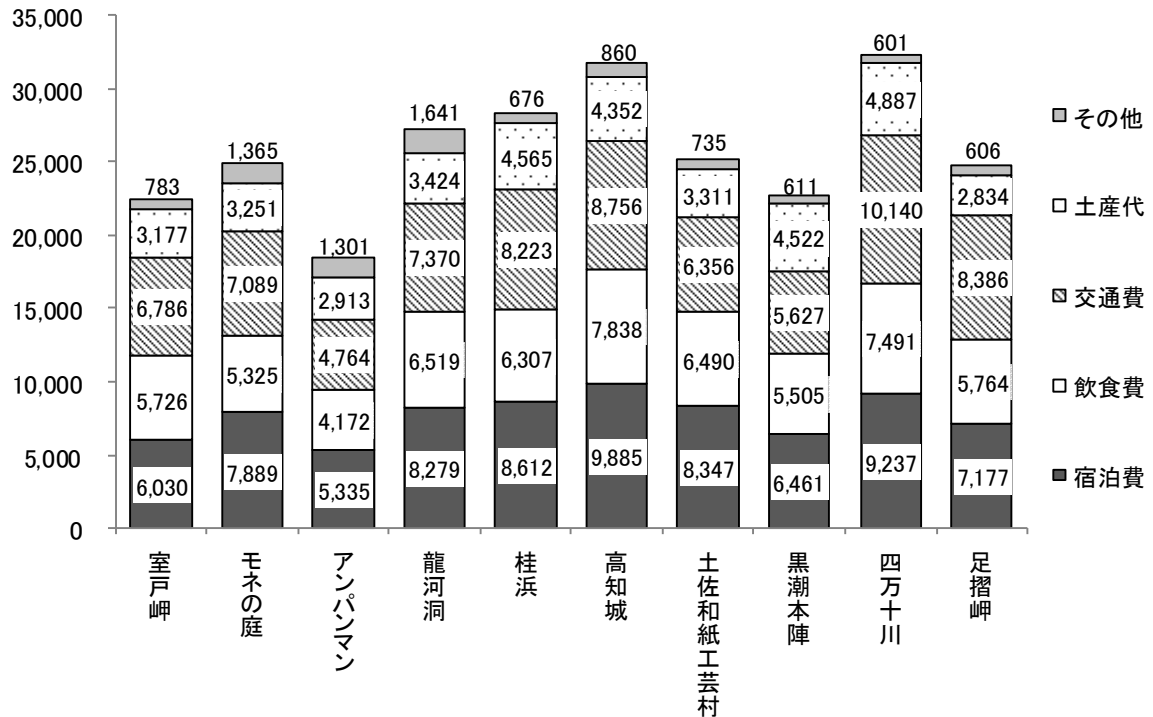
(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額(円) [R3 年、R4 年]

	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R3 年	21,813	22,933	20,286	30,264	26,646	31,101	23,454	20,464	29,495	28,797
R4 年	22,502	24,919	18,485	27,233	28,383	31,691	25,239	22,726	32,356	24,767
前年との差	689	1,986	▲1,801	▲3,031	1,737	590	1,785	2,262	2,861	▲4,030

調査地別の年間平均消費額をみると、「四万十川」が 32,356 円で最も高く、次いで、「高知城」が 31,691 円、「桂浜」が 28,383 円と続いており、「アンパンマンミュージアム」が 18,485 円で最も低くなっている。

前年と比べ、「四万十川」が 2,861 円、「黒潮本陣」が 2,262 円の増加となっており、その一方で「足摺岬」が 4,030 円、「龍河洞」が 3,031 円の減少となっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [R4 年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、室戸岬、四万十川、足摺岬では「交通費」が、その他の調査地では「宿泊費」が最も多くなっている。

(参考)県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R4		R3		R2		R1	
	R4-R3 (対R3増減率)	R3-R2 (対R2増減率)	R2-R1 (対R1増減率)	R1-H30 (対H30増減率)	R4-R3 (対R3増減率)	R3-R2 (対R2増減率)	R2-R1 (対R1増減率)	R1-H30 (対H30増減率)
県外観光客総数(人)	3,707,314	1,035,190	2,672,124	4,301	2,667,823	1,720,525	4,388,348	▲ 24,223
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
県外観光客一人当たり消費額 (円)	2,597	1,034,062	1,469	3,624	792	1,664,575	4,331,606	▲ 52
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
<内訳> 宿泊費	26,076	▲ 126	26,202	1,908	24,294	▲ 912	25,206	▲ 27
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
飲食費	7,780	▲ 216	7,996	541	7,455	458	6,997	248
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
交通費	6,176	▲ 289	6,465	505	5,960	▲ 250	6,210	8
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
土産	7,478	344	7,134	889	6,245	▲ 802	7,047	186
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
その他	3,731	45	3,686	▲ 94	3,780	▲ 217	3,997	▲ 843
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
県外観光客の総消費額(百万 円)	96,604	26,627	69,977	5,184	64,793	▲ 44,389	109,182	▲ 118
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
生産誘発効果(百万円)	144,127	104,421	149	1.49	96,387	168,455	1.54	
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)
生産誘発効果(倍)	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49	1.49	1.54	
	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)	客船 (乗船客数)	客船以外 (客船以外)

10.1.2 四季別

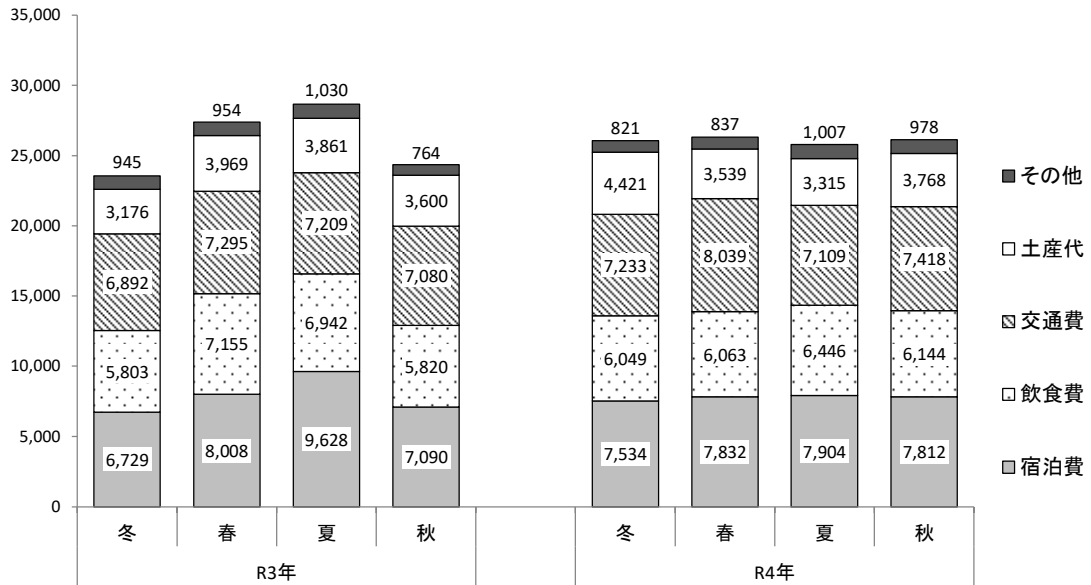
(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R3 年、R4 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	R3 年	29	25	29	13	4	23,545 円	2,513 円
	R4 年	29	23	28	17	3	26,058 円	
春	R3 年	29	26	27	15	3	27,381 円	▲ 1,071 円
	R4 年	30	23	31	13	3	26,310 円	
夏	R3 年	34	24	25	13	4	28,670 円	▲ 2,889 円
	R4 年	31	25	27	13	4	25,781 円	
秋	R3 年	29	24	29	15	3	24,354 円	1,766 円
	R4 年	30	24	28	14	4	26,120 円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、冬季が 2,513 円、秋季が 1,766 円の増加となっており、夏季が 2,889 円、春季が 1,071 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は春季と秋季で増加、冬季は横ばい、夏季の時季は減少となっている。「飲食費」は夏季で増加、秋季は横ばい、冬季と春季は減少となっている。「交通費」は春季と夏季で増加、その他の時季は減少となっている。「土産代」は冬季で増加、夏季で横ばい、その他の時季で減少となっている。「その他」は秋季で増加、春季と夏季は横ばい、冬季は減少となっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [R3 年、R4 年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、「宿泊費」が夏季の7,904円、「飲食費」が夏季の6,446円、「交通費」が春季の8,039円、「土産代」が冬季の4,421円、「その他」が夏季の1,007円となっている。

前年と比べ増加した時季と費目は、冬季の「その他」を除くすべての費目、春季の「交通費」、秋季はすべての費目となっており、夏季はすべての費目で減少となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R3 年、R4 年]

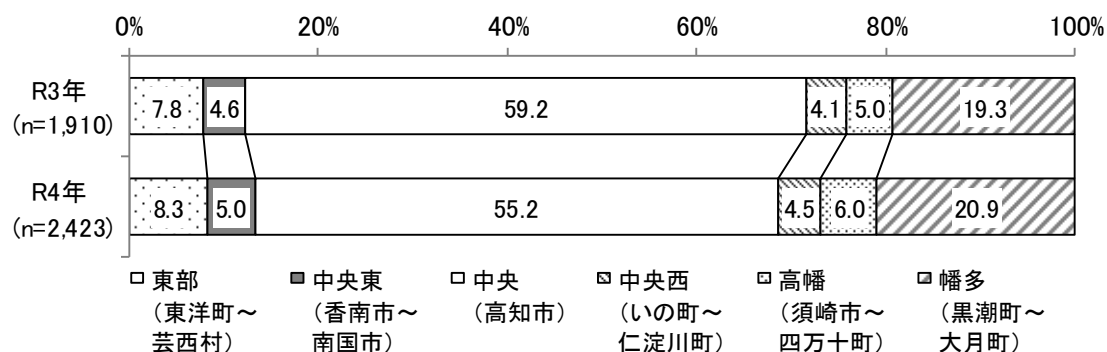
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	R3 年	23	26	30	18	3	26,101 円	398 円
	R4 年	29	19	28	19	5	26,499 円	
20 代	R3 年	30	25	30	12	3	26,920 円	1,231 円
	R4 年	29	26	31	11	3	28,151 円	
30 代	R3 年	31	24	27	14	4	25,643 円	▲ 34 円
	R4 年	28	25	30	13	4	25,609 円	
40 代	R3 年	31	25	26	14	4	26,075 円	▲ 2,531 円
	R4 年	28	25	27	16	4	23,544 円	
50 代	R3 年	29	26	27	15	3	26,632 円	▲ 778 円
	R4 年	30	23	29	15	3	25,854 円	
60 代以上	R3 年	32	23	26	15	4	25,852 円	2,672 円
	R4 年	33	21	28	15	3	28,524 円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると、60 代以上が 2,672 円、20 代が 1,231 円、10 代が 398 円の増加となっており、40 代が 2,531 円、50 代が 778 円、30 代が 34 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、「宿泊費」は 10 代、50 代、60 代以上で増加、その他の年代は減少となっている。「飲食費」は 20 代と 30 代で増加、40 代は横ばい、その他の年代は減少となっている。「交通費」は 10 代を除くすべての年代で増加となっている。「土産代」は 10 代と 40 代で増加、50 代と 60 代以上は横ばい、その他の年代は減少となっている。「その他」は 10 代で増加、60 代以上で減少、その他の年代は横ばいとなっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [R3年、R4年]



県内での宿泊地域をみると、「中央」が55.2%で最も高く、次いで「幡多」が20.9%、「東部」が8.3%、「高幡」が6.0%、「中央東」が5.0%、「中央西」が4.5%と続いている。前年と比べ、「幡多」が1.6ポイント、「高幡」が1.0ポイント、「東部」が0.5ポイント、「中央東」と「中央西」が0.4ポイントの増加、「中央」が4.0ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [R4年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	26.7	8.2	44.8	1.7	5.6	13.0
モネの庭	30.5	6.0	51.5	3.0	2.4	6.6
アンパンマン	5.6	13.7	65.0	5.6	3.8	6.3
龍河洞	7.1	10.3	68.3	3.2	4.0	7.1
桂浜	3.4	7.5	74.9	4.1	4.5	5.6
高知城	1.9	1.9	84.3	2.3	1.9	7.7
土佐和紙工芸村	3.0	1.5	61.3	19.6	4.0	10.6
黒潮本陣	4.1	2.9	40.6	5.3	27.7	19.4
四万十川	3.0	1.1	32.7	1.9	4.9	56.4
足摺岬	7.4	2.3	33.2	3.4	7.4	46.3
全体	8.3	5.1	55.2	4.5	6.0	20.9

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると、桂浜は「中央」「中央東」の順で、高知城は「中央」「幡多」の順で、四万十川と足摺岬は「幡多」「中央」の順で、その他の調査地は「中央」と調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [R4 年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	その他
室戸岬	69.3	10.1	1.5	6.0	13.1
モネの庭	83.9	6.2	3.7	3.1	3.1
アンパンマン	71.7	19.7	2.0	0.7	5.9
龍河洞	77.0	13.2	0.0	3.8	6.0
桂浜	83.0	6.7	2.0	1.6	6.7
高知城	91.4	4.8	1.4	1.4	1.0
土佐和紙工芸村	75.9	7.1	4.4	1.1	11.5
黒潮本陣	56.5	18.6	5.0	5.0	14.9
四万十川	63.5	21.5	2.1	3.7	9.2
足摺岬	70.7	7.5	0.4	8.4	13.0
全体	74.8	11.5	2.0	3.5	8.2

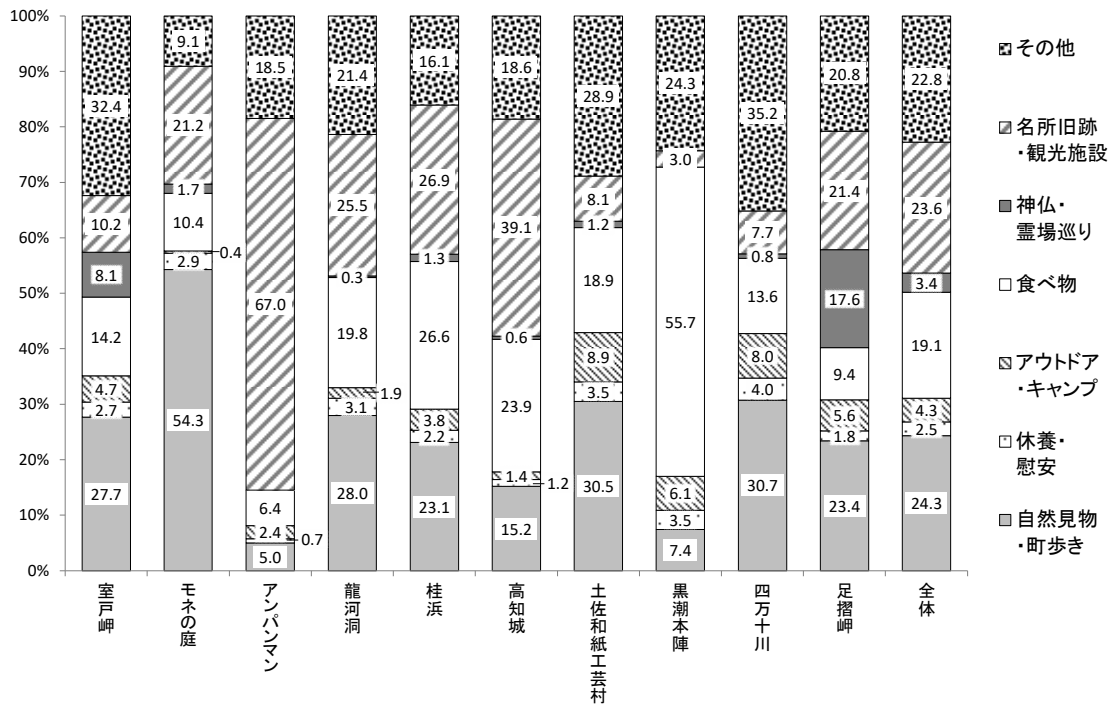
※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、室戸岬、土佐和紙工芸村、足摺岬は「ホテル・旅館」「その他」の順で、桂浜は「ホテル・旅館」、同率で「実家・知人宅」「その他」の順で、その他の調査地は「ホテル・旅館」「実家・知人宅」の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [R4 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [R4 年]

	自然見物・町歩き	休養・慰安	アウトドア・キャンプ	食べ物	神仏・霊場巡り	名所旧跡・観光施設	その他
室戸岬	27.7	2.7	4.7	14.2	8.1	10.2	32.4
モネの庭	54.3	2.9	0.4	10.4	1.7	21.2	9.1
アンパンマン	5.0	0.7	2.4	6.4	0.0	67.0	18.5
龍河洞	28.0	3.1	1.9	19.8	0.3	25.5	21.4
桂浜	23.1	2.2	3.8	26.6	1.3	26.9	16.1
高知城	15.2	1.2	1.4	23.9	0.6	39.1	18.6
土佐和紙工芸村	30.5	3.5	8.9	18.9	1.2	8.1	28.9
黒潮本陣	7.4	3.5	6.1	55.7	0.0	3.0	24.3
四万十川	30.7	4.0	8.0	13.6	0.8	7.7	35.2
足摺岬	23.4	1.8	5.6	9.4	17.6	21.4	20.8
全体	24.3	2.5	4.3	19.1	3.4	23.6	22.8

※背景色+太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別の旅行目的をみると、「室戸岬」は“その他”“自然見物”の順で多く、その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

「モネの庭」、「龍河洞」、「足摺岬」は“自然見物・町歩き”“名所旧跡・観光施設”の順で多くなっている。

「アンパンマンミュージアム」は“名所旧跡・観光施設”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「桂浜」と「高知城」は“名所旧跡・観光施設”“食べ物”の順で多くなっている。

「土佐和紙工芸村」は“自然見物・町歩き”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“なんとなく（ドライブを含む）”が最も多くなっている。

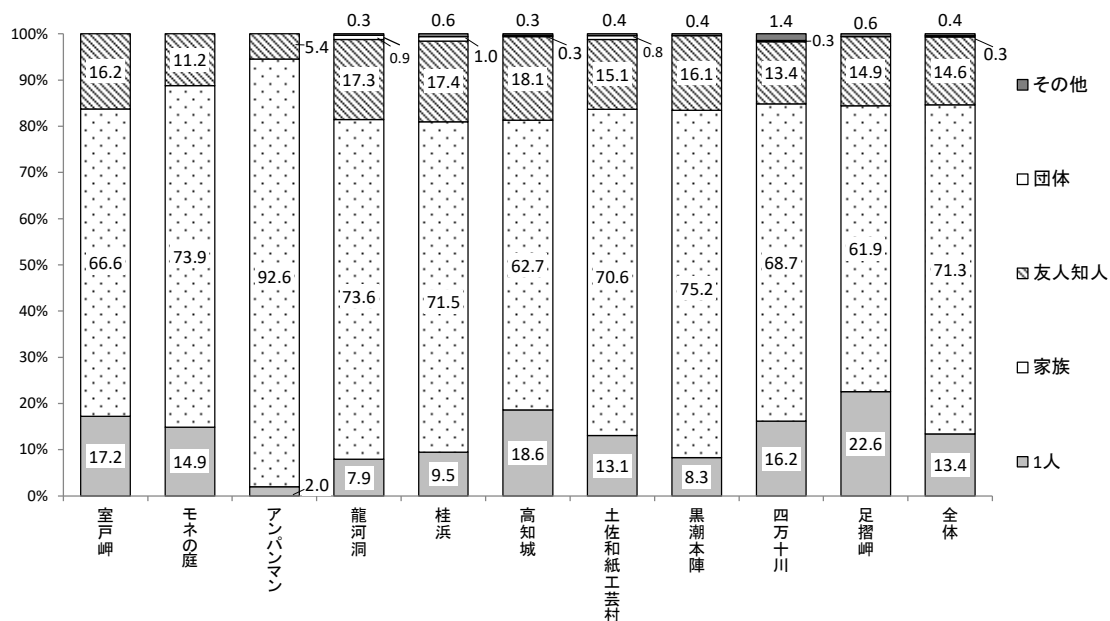
「黒潮本陣」は“食べ物”“その他”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

「四万十川」は“その他”“自然見物・町歩き”の順で多く、その他の内訳では、“帰省・知人訪問”が最も多くなっている。

旅行目的別に割合が最も多くなった調査地をみると、“自然見物・町歩き”は54.3%で「モネの庭」、「休養・慰安」は4.0%で「四万十川」、「アウトドア・キャンプ」は8.9%で「土佐和紙工芸村」、「食べ物」は55.7%で「黒潮本陣」、「神仏・霊場巡り」は17.6%で「足摺岬」、「名所旧跡・観光施設」は67.0%で「アンパンマンミュージアム」となっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [R4年]

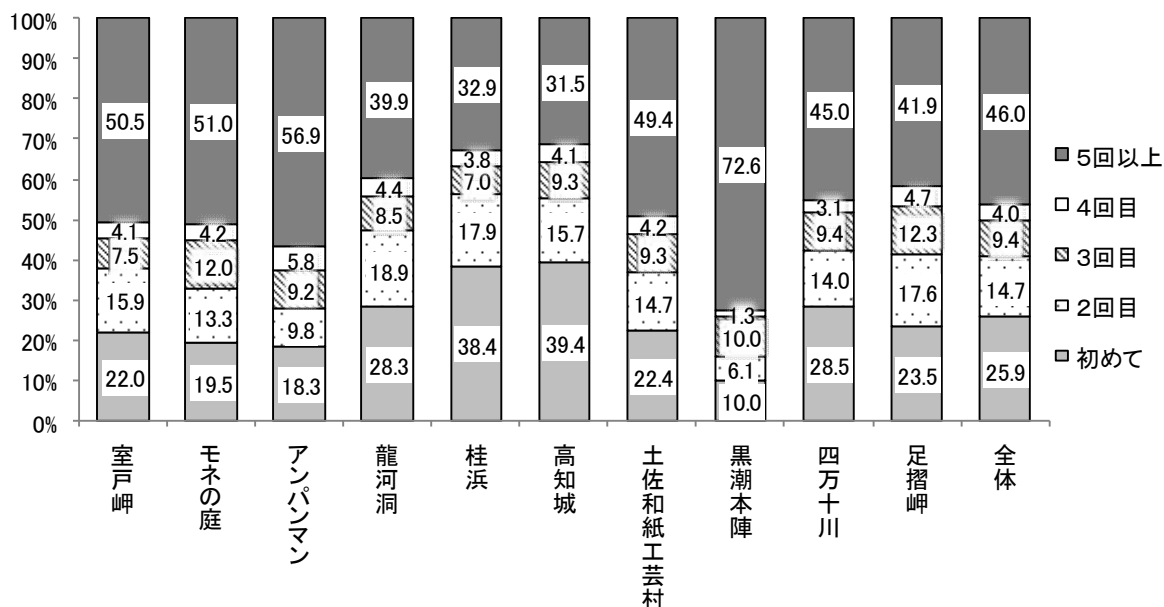


調査地別の旅行形態割合をみると、すべての調査地で「家族」が最も多く、次いで、室戸岬、モネの庭、高知城、四万十川、足摺岬は「1人」が、その他の調査地は「友人知人」が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別に割合が最も多くなった調査地をみると、「1人」は22.6%で足摺岬、「家族」は92.6%でアンパンマンミュージアム、「友人知人」は18.1%で高知城、「団体」は1.0%で桂浜、「その他」は1.4%で四万十川となっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [R4 年]



(表 12-5) 過去来県回数割合(%) [R 元年～R4 年]

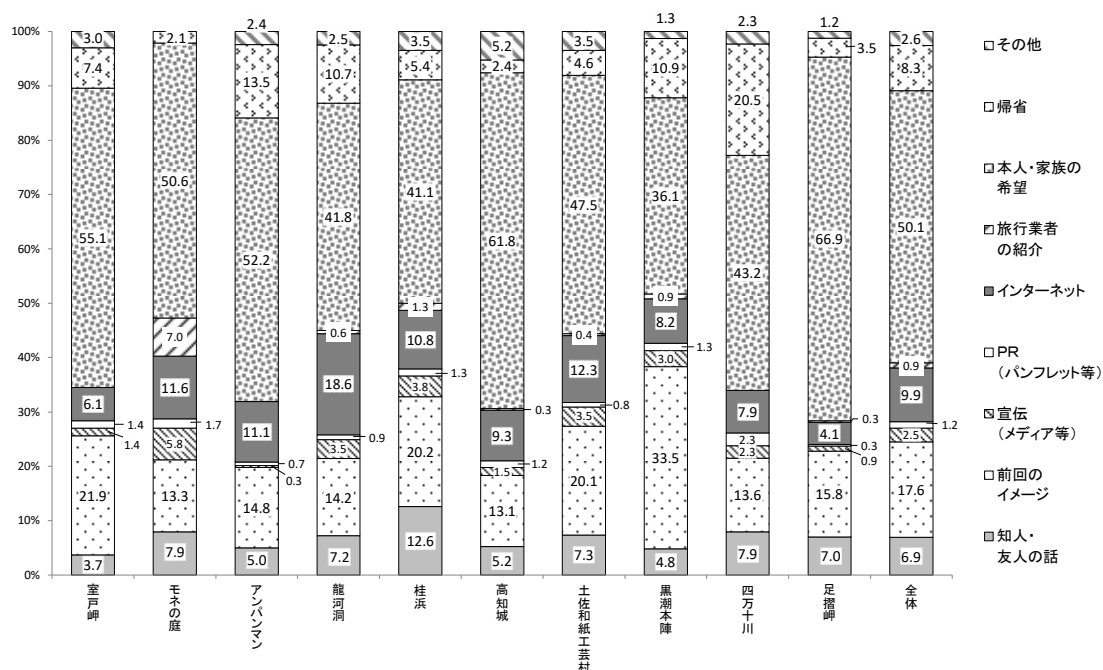
	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上
R 元年	22.7	14.2	10.5	3.7	48.9
R2 年	23.1	14.1	9.9	3.6	49.3
R3 年	25.8	13.9	11.7	3.5	45.1
R4 年	25.9	14.7	9.4	4.0	46.0

全体の過去来県回数は、「5回以上」が46.0%と最も多く、次いで「初めて」が25.9%、「2回目」が14.7%、「3回目」が9.4%、「4回目」が4.0%と続いている。

来県回数別に割合が最も多くなった調査地をみると、「初めて」は39.4%で高知城、「2回目」は18.9%で龍河洞、「3回目」は12.3%で足摺岬、「4回目」は5.8%でアンパンマンミュージアム、「5回以上」は72.6%で黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

(図 12-6) 調査地別動機割合(%) [R4 年]



(表 12-7) 調査地別動機割合(%) [R4 年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	3.7	21.9	1.4	1.4	6.1	0.0	55.1	7.4	3.0
モネの庭	7.9	13.3	5.8	1.7	11.6	7.0	50.6	2.1	0.0
アンパンマン	5.0	14.8	0.3	0.7	11.1	0.0	52.2	13.5	2.4
龍河洞	7.2	14.2	3.5	0.9	18.6	0.6	41.8	10.7	2.5
桂浜	12.6	20.2	3.8	1.3	10.8	1.3	41.1	5.4	3.5
高知城	5.2	13.1	1.5	1.2	9.3	0.3	61.8	2.4	5.2
土佐和紙工芸村	7.3	20.1	3.5	0.8	12.3	0.4	47.5	4.6	3.5
黒潮本陣	4.8	33.5	3.0	1.3	8.2	0.9	36.1	10.9	1.3
四万十川	7.9	13.6	2.3	2.3	7.9	0.0	43.2	20.5	2.3
足摺岬	7.0	15.8	0.9	0.3	4.1	0.3	66.9	3.5	1.2
全体	6.9	17.6	2.5	1.2	9.9	0.9	50.1	8.3	2.6

※ 背景色+太字は動機ごとの上位2位まで。

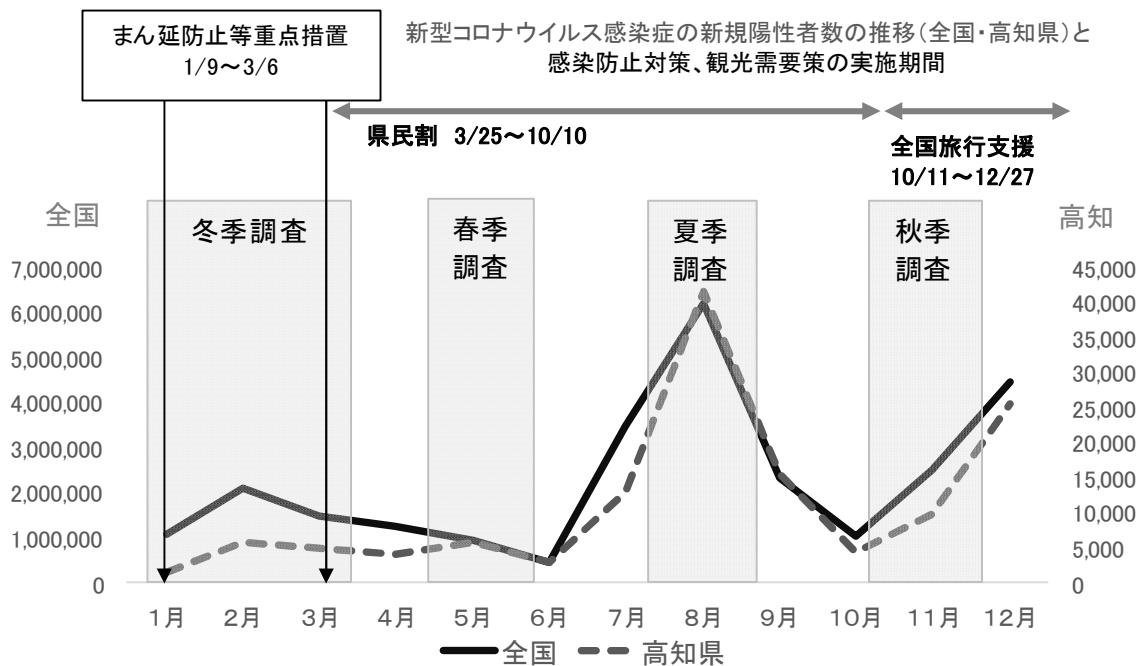
全体の動機割合をみると、「本人・家族の希望」が50.1%と最も多く、次いで「前回のイメージ」が17.6%、「インターネット」が9.9%、「帰省」が8.3%と続いている。

動機別に割合が最も多くなった調査地をみると、「知人・友人の話」は12.6%で桂浜、「前回のイメージ」は33.5%で黒潮本陣、「宣伝（メディア等）」は5.8%でモネの庭、「PR（パンフレット等）」は2.3%で四万十川、「インターネット」は18.6%で龍河洞、「旅行業者の紹介」は7.0%でモネの庭、「本人・家族の希望」は66.9%で足摺岬、「帰省」は20.5%で四万十川となっている。

13 <参考>委託業者の所見

令和4年は新型コロナウイルスの新たな変異株・オミクロン株が流行。第5波、6波と続くコロナ禍で、政府は令和2年12月から停止していた「GoTo トラベルキャンペーン」に代わる、新たな観光需要喚起策「県民割」の支援を令和3年4月からスタート。その後、令和4年10月からは全国を対象に広げた「全国旅行支援」が始まる。また、訪日外国人への入国時の査証免除や1日の入国者数の上限見直し等の水際対策の規制緩和が行われた。

高知県では新型コロナウイルスの感染状況に応じて、感染者数が多い都道府県在住者へのキャンペーン適用は一時休止しながらも、「高知観光トク割キャンペーン」（県民割、全国旅行支援）に加え、「高知観光リカバリーキャンペーン」を行ってきた。さらに、安芸・室戸エリアで「ひがしこうちでGO!GO!!おでかけクーポン券」や、嶺北エリアで「泊まって使える遊べる!れいほくクーポンキャンペーン」等、各エリアでの誘客キャンペーンも実施。



その他にも、高知のグルメとそれをつくる地元の人たちにスポットを当てた「高知の味曜日 人熱々料理」の情報発信、県内対象エリア内での公共交通が乗り放題になる「高知プレミアム交通 Pass」の販売等にも取り組んできた。

そのような状況において行った観光統計調査の分析結果を参考に、多変量解析を用いた県内消費額の分析と旅行者の動向等について報告する。

1. 県内消費額に関する分析と考察

ここでは、県内消費額の変動に影響を与える要因について分析した結果とその説明、および考察を記載する。

旅行の主要な目的が「観光」と回答した県外旅行者（n=2, 652）の、消費額と旅行者の行程や属性について、相関係数 r （2つのデータの関係の強弱を測る指標）を求めた結果は、表 13-1 のとおりである。

相関係数の見方の目安として用いられている尺度を参考に、この結果から得られる例を挙げると、「出発地からの距離」と「交通費」との間には正の相関があり、遠方から訪れる旅行者ほど交通費が多くなる傾向が強く、逆に負の相関がある「来県回数」と「出発地からの距離」に着目すれば、来県回数が多い旅行者ほど出発地からの距離が少ない（近い）傾向があることなどが分かる。

相関係数の大きさと同程度の尺度

$-1.0 \leq r \leq -0.7$	$-0.7 \leq r \leq -0.4$	$-0.4 \leq r \leq -0.2$	$-0.2 \leq r \leq 0.2$	$0.2 \leq r \leq 0.4$	$0.4 \leq r \leq 0.7$	$0.7 \leq r \leq 1.0$
強い負の相関	負の相関	弱い負の相関	ほとんど相関がない	弱い正の相関	正の相関	強い正の相関

（表 13-1）相関係数 [R4 年・観光目的]

		消費額の費目					行程		属性(※)			
		交通費	宿泊費	土産代	飲食費	その他	県内宿泊数	立寄数	出発地からの距離	来県回数	同行者の人数	回答者の年代
消費額の費目	交通費	1										
	宿泊費	0.277	1									
	土産代	0.118	0.272	1								
	飲食費	0.256	0.349	0.346	1							
	その他	-0.026	0.106	0.048	0.097	1						
行程	県内宿泊数	0.319	0.454	0.243	0.543	0.101	1					
	立寄数	0.177	0.257	0.166	0.283	0.256	0.392	1				
属性(※)	出発地からの距離	0.679	0.247	0.237	0.337	0.033	0.410	0.267	1			
	来県回数	-0.326	-0.225	-0.137	-0.220	-0.053	-0.259	-0.262	-0.476	1		
	同行者の人数	-0.321	-0.007	-0.037	-0.088	0.118	-0.087	-0.082	-0.178	-0.030	1	
	回答者の年代	-0.015	0.026	0.102	-0.032	-0.003	-0.003	0.026	-0.005	0.208	-0.065	1

(※) 「出発地からの距離」は、出発地の都道府県庁所在地を基準とした直線距離の概算値。
「来県回数」は、グループ全体で各個人の回答が得られている場合はグループの平均値。
得られていない場合は回答者個人の回答値。

「県内宿泊数」「立寄数」「出発地からの距離」が多い旅行者ほど複数の費目で消費額が多くなる傾向があり、特に「県内宿泊数」と宿泊費、飲食費との間にはその傾向が強くみられる。それとは逆に「来県回数」が多い旅行者は、宿泊費や飲食費が少なくなる傾向があると考えられる。

こういった関係性から、全体の消費額を増加させるためには、遠方からの誘客、滞在日数の増加、立寄（周遊）の促進が効果的である。また、リピーターに対しては、「高知光のフェスタ」や「スターウォッチング」等のようなナイトイベントを今後も積極的にPR、開催していくことで、宿泊費だけでなく、おのずと他の消費額増加にも期待できるだろう。

さらにこの相関係数を参考に、消費額に影響を与える傾向があると考えられる項目について重回帰分析（ある結果（目的変数）について、関連する複数の要因（説明変数）それぞれの影響度を数値化し、結果の予測を行う手法）を行った結果は、表 13-2 のとおりである。

なお、目的変数 y は「現地消費額（県内交通費をのぞく 4 費目の合計）」、説明変数の x_1 は「県内宿泊数」、 x_2 は「立寄数」、 x_3 は「出発地からの距離」としている。

（表 13-2）重回帰分析 [R4 年・観光目的]

重回帰統計	
重相関 R	0.594305
重決定 R ²	0.353199
補正 R ²	0.352466
標準誤差	13507.93
観測数	2652

	係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
切片	4667.525	632.7413	7.376672	2.16E-13	3426.808	5908.242
県内宿泊数(泊)	6948.326	266.3266	26.08949	9.8E-134	6426.097	7470.556
立寄数(ヶ所)	1452.833	207.4686	7.002666	3.17E-12	1046.016	1859.65
出発地からの距離(km)	10.50392	1.463109	7.17918	9.07E-13	7.634971	13.37288

この結果から重回帰式は、以下のように表すことができる。

$$y = 4,667 + 6,948x_1 + 1,453x_2 + 11x_3$$

※ 現地消費額 = 4,667 + (6,948 × 県内宿泊数) + (1,453 × 立寄数) + (11 × 出発地からの距離)

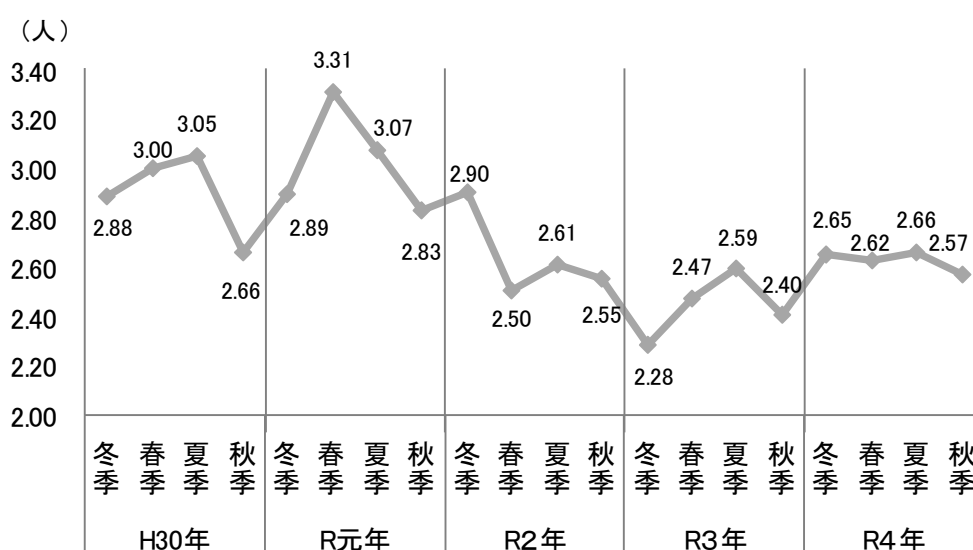
全体の消費額を増加させるための取組を行ったと仮定し、この重回帰式から、他の説明変数を固定した（変化させない）場合、現地消費額は県内宿泊数が 1 泊増えるごとに 6,948 円、立寄数が 1 ヶ所増えるごとに 1,453 円、出発地からの距離が 1 km 増えるごとに 11 円増加すると予測できる。

2. ウィズコロナ時代の旅行者の動向と新たなニーズ

今年度調査の結果では、近隣3ブロック以外の遠方の発地ブロックからの入込回復（P20表4-1）や、同行者数の増加（P30表8-2）など、少しずつコロナ禍前のように旅や帰省を楽しむ旅行者が戻ってきた。

本項では、直近5年間の旅行者の平均人数、帰省客の推移についてと、コロナ禍で見えてきた旅行者の新たなニーズについて報告する。

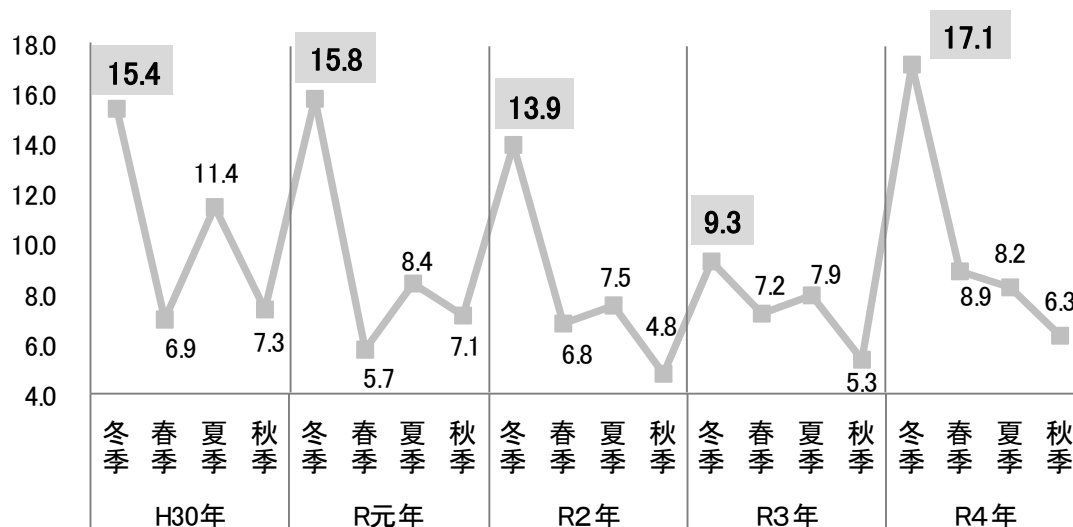
（図13-3）旅行者1組あたりの平均人数（人）〔H30～R4年〕



まず、H30年度調査から今年度調査までの四季別に算出した、旅行者1組あたりの平均人数をみると、3.0人前後だった水準が、R2年度調査の春季から2.5人前後までに落ち込んでいる。R2年度調査の春季（調査時期：令和2年6月20日～7月24日）はコロナウイルス第2波が流行しているタイミングであり、R3年度調査の冬季（調査時期：令和3年1月2日～3月7日）は緊急事態宣言の発令（令和3年1月7日～3月18日）の影響と考えられる。

コロナ禍では少人数での旅行が多かったことが、ここから読み取れる。今年度調査では、2.6人前後が続いているが、コロナ禍前の水準に至っておらず、依然としてウィズコロナが続いたといえるだろう。

(図 13-4) 帰省客割合の推移(%) [H30～R4 年]



続いて、直近5年間の帰省客について、四季別に推移をまとめた図 13-3 をみると、R2年度までの冬季調査では、県外旅行者のうち15%前後を帰省客が占めていることが分かる。R3年度調査では、外出自粛や政府からの県をまたぐ行動制限等の影響を受け9.3%まで落ち込んだが、今年度調査では17.1%と過去最大となった。令和4年のお正月シーズンでは調査時や報道においても、「コロナ禍で帰省を見送っていたが数年ぶりに帰省した」といった声が多く聞かれ、この推移とあわせてみると、帰省客の動向はコロナ禍前の状況になっているであろうと推察される。

なお、R2年度冬季調査（調査時期：令和2年1月2日～3月8日）は、新型コロナウイルスの感染が国内で報告される以前に、モネの庭を除く9地点で実施していることから、コロナ禍前と同様の水準となっている。

(表 13-5) 県内利用宿泊施設割合(%) [H30～R4 年 全宿泊施設データ]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・ユースホステル	保養所	キャンプ場	車中泊	別荘	会員制	その他
H30年 (n=1,790)	76.8	13.7	3.2	1.9	0.1	1.1	2.6	0.0	0.0	0.6
R1年 (n=2,017)	74.9	13.8	2.5	2.8	0.1	1.7	3.2	0.1	0.0	0.8
R2年 (n=1,905)	80.0	9.8	2.5	2.3	0.0	2.3	2.3	0.0	0.0	0.8
R3年 (n=1,819)	77.5	9.1	3.1	2.7	0.1	2.6	4.3	0.0	0.0	0.5
R4年 (n=2,200)	74.8	11.5	2.0	3.5	0.0	2.5	5.1	0.0	0.0	0.5

また、県内で利用された宿泊施設について、直近5年間の全宿泊施設の割合をまとめた表13-5をみると、「車中泊」がR3年度調査から増加傾向にある。これはコロナ禍での旅行で、密を避けて移動や寝泊りができるといった点に加えて、時間に縛られないことや自由に旅先を決められる等、旅行の計画を立てやすいことから増加したと考えられる。

今後も「車中泊」ブームが続くかは未知数であるものの、RVパークをはじめとした車中泊ユーザ向けの施設のほか、車でも立ち寄りやすい温泉施設や食事処、ペット同伴で楽しめるレジャー施設等が充実している地域が車中泊ユーザの目的地として人気となる可能性がある。

県内には豊かな自然に包まれたオートキャンプ場や、ドッグランを併設した施設等があり、こういったスポットの情報が全国に届くような発信も求められるのではないだろうか。

3. 朝ドラ効果で高知県観光のリピーターを増やす

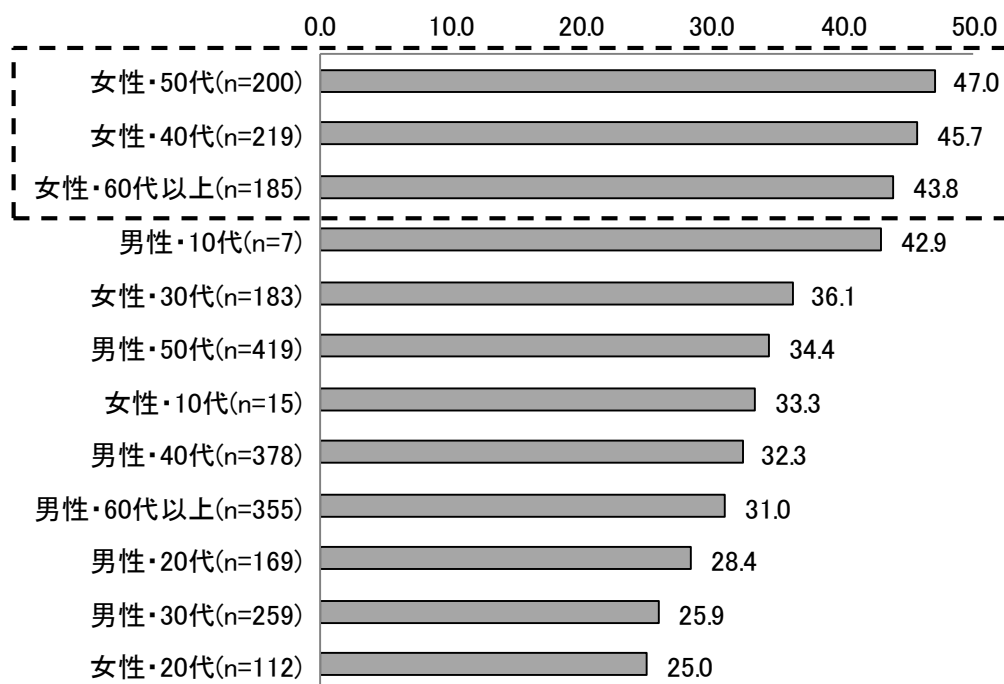
令和5年4月から放映開始となるNHK連続テレビ小説『らんまん』（以下、『らんまん』）は、今後の高知への誘客に大きな期待が寄せられている。放映にあわせて、県内では新たなキャンペーン「牧野富太郎博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」(以下、新キャンペーン)が開催される等、コロナ禍により落ち込んだ観光需要の回復という観点からみると、その起爆剤となり得る大きなトピックであることは間違いない。

	牧野富太郎を知っている	牧野富太郎が佐川町出身と知っている	朝ドラを見る習慣がある	『らんまん』のモデルが牧野富太郎と知っている	『らんまん』放映を契機に高知を再訪したい
牧野富太郎を知っている	1				
牧野富太郎が佐川町出身と知っている	0.652	1			
朝ドラを見る習慣がある	0.219	0.197	1		
『らんまん』のモデルが牧野富太郎と知っている	0.470	0.544	0.305	1	
『らんまん』放映を契機に高知を再訪したい	0.148	0.216	0.356	0.254	1

まず、今年度調査で行った牧野富太郎、『らんまん』に関する設問の相関係数をみると、「『らんまん』放映を契機に高知を再訪したい」と「朝ドラを見る習慣がある」には弱い正の相関がある。このことから、朝ドラを見る習慣がある層をターゲットにしたプロモーションが誘客に効果的だと考えられる。

また、『らんまん』放映を契機に高知を再訪したい」と「牧野富太郎を知っている」との間には相関が見られず、牧野富太郎という人物のPR自体には誘客効果が期待できないとも考えられる。

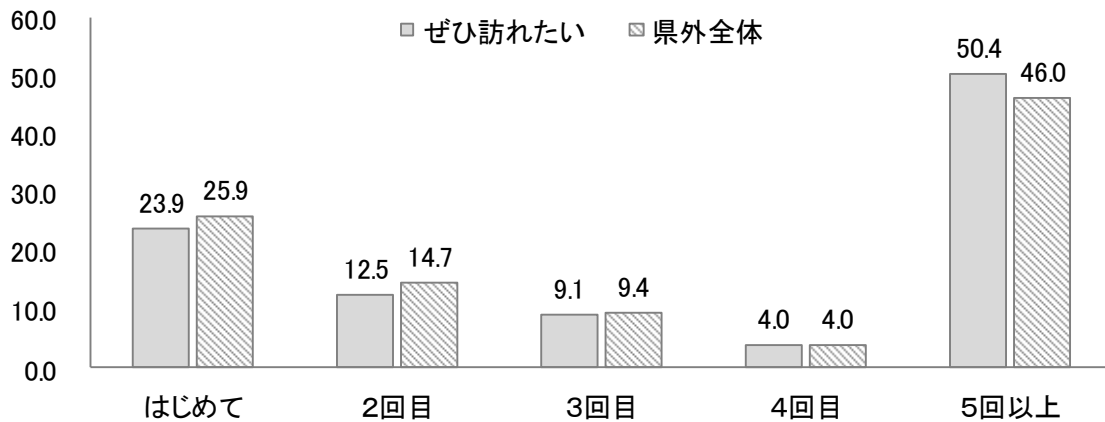
(図 13-6)性別・年代の高知再訪割合(%) [R4 年 春季-秋季 県外旅行者]



続いて、『らんまん』が放送されたら、また高知を訪れたいかを尋ねた設問において、ぜひ訪れたいと回答した旅行者について、性別と年代を組み合わせた結果(図 13-6)をみると、「40代」以上の「女性」が、いずれも4割を超えており、この層が新キャンペーンを通じた誘客のメインターゲットになるだろう。※男性・10代はサンプル数が僅少のため参考から除外。

このことから考えられる例としては、新キャンペーンのプロモーションにおいて情報発信に用いられるパンフレットやSNS、ウェブサイト等の媒体では、落ち着いた雰囲気のあるデザインや画像のセレクト、言葉遣いを意識することで、ターゲット層へのリーチ率向上が期待できることがある。

(図 13-7) 来県回数の高知再訪割合(%) [R4 年 春季-秋季 県外旅行者]



また、『らんまん』の放送を契機に、高知を訪れたいと回答した県外旅行者 (N=868) と、県外旅行者の全体の来県回数を比較した図 13-7 をみると、来県が「5回以上」と回答した層だけが県外全体を上回っている。これは、もとより高知県観光のリピーターとなっている旅行者層のほうが朝ドラに関連した旅行へ期待感を持っていることが分かる。来県が「はじめて」、「2回目」の旅行者にとっては、放映前のタイミングということも考慮しても『らんまん』放映が高知県再訪の強い動機付けにはなっていないと思われる。

最後に、『らんまん』の放映がきっかけで高知に来訪した旅行者に、リピーターとして来てもらうための取組も必要になることを付け加えたい。そのためには、新キャンペーンの主な会場となる高知県立牧野植物園や佐川町の牧野公園をはじめ、牧野富太郎のゆかりのある地等の周辺で楽しめる観光施設やグルメ、高知ならではの体験プログラム等の周遊観光にも継続して取り組み、これまでと同様に高知ファンを増やすという視点が欠かせない。

さらに、『らんまん』が放映される半年間だけの一過性のブームだけで終わらせることなく、放映終了後も高知を訪れてもらうための新たな観光コンテンツを育ていくべきだろう。注目を浴びている今だからこそ、地域のボランティアが積極的に行っている観光ガイドや花の植樹、自然保全活動等が周遊スポットとなり、体験メニューとして育て、根付かせる必要がある。それをすることで、今後の高知の新たな観光コンテンツのひとつになることを期待し、まとめとしたい。

Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒にの旅行ですか。 ※子供や乳幼児も含む

() 人

2人以上の場合
 → 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上 () 回目

Q10. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

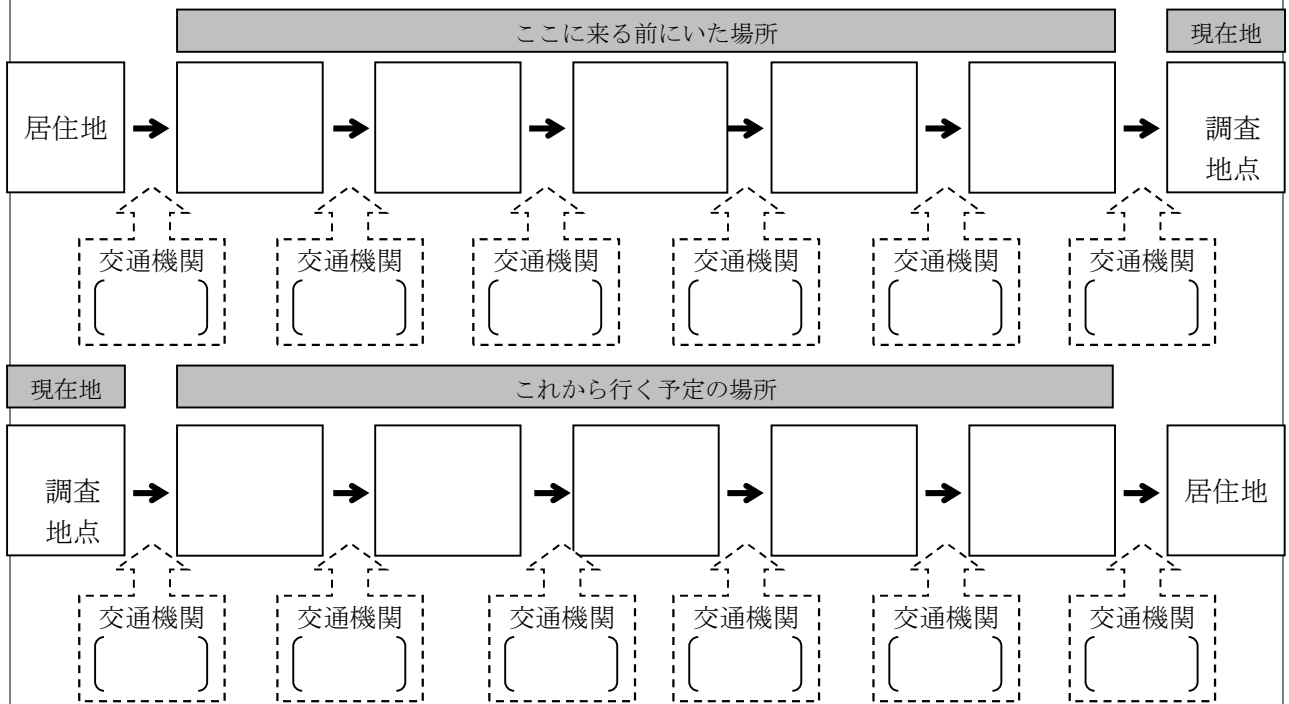
ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。 ※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
 3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。 ※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

また、この県に訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

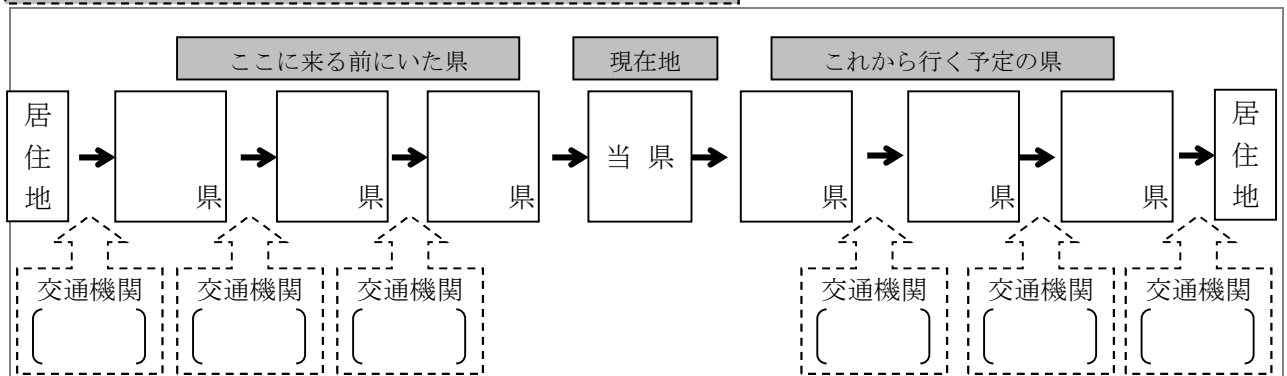
高知県までの主な交通機関 [] 高知県内での主な交通機関 []



【表】交通機関

- | | | | | |
|-----------------------|-------------|-------------|---------------|------------|
| ① J R 新幹線 | ② J R 在来線 | ③ 私鉄・地下鉄 | ④ モノレール | ⑤ - 1 貸切バス |
| ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) | ⑥ 高速バス | ⑦ 市内バス・路線バス | | |
| ⑧ 路面電車 | ⑨ タクシー・ハイヤー | ⑩ レンタカー | ⑪ 自家用車、社用・公用車 | |
| ⑫ 飛行機 | ⑬ フェリー | ⑭ バイク | ⑮ その他 | |

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
- ⑤ - 2 観光バス (MY遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
- ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
- ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

- ※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入
- ※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択
- ※ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用	使用費用
①交通費	(県内分) 円	(県外分) 円
②宿泊費	(県内分) 円	
③土産代	(県内分) 円	
④飲食費	(県内分) 円	
⑤入場料	(県内分) 円	
⑥その他	(県内分) 円	
⑦パック料金		円
		↑ <input type="checkbox"/> 県内分のみ もしくは <input type="checkbox"/> 県外分含む

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

- ※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード

1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	

・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q1 「おもてなしタクシー」をご存じですか。

- 1 知っている 2 知らなかった

Q2 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

- 1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】()

・世界的な植物学者「牧野富太郎」について。

Q3 世界的な植物学者「牧野富太郎」をご存じですか。

- 1 知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q4 「牧野富太郎」の生誕地が高知県（佐川町）であることをご存じですか。

- 1 知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q5 NHK 連続テレビ小説（朝ドラ）をご覧になる習慣がありますか。

- 1 ほぼ毎朝見ている 2 たまに見ている 3 作品の内容による 4 あまり関心がない

Q6 令和5年度前期のNHK連続テレビ小説『らんまん』の主人公のモデルが「牧野富太郎」であることをご存じですか。

- 1 知っていた 2 旅行中に知った 3 知らなかった

Q7 令和5年度前期のNHK連続テレビ小説『らんまん』が放送されたら、また高知を訪れたいと思いませんか。

- 1 ぜひ訪れたい 2 そうは思わない

・高知駅前観光案内所「とさてらす」について

Q8 高知駅前の観光案内所「とさてらす」を利用したことはありますか。

- 1 利用した 2 知っていたが利用しなかった 3 知らなかった（初めて聞いた）ので利用していない

Q9 「とさてらす」を利用したことがある方にお聞きします。「とさてらす」での観光案内・おもてなしについて

- 1 大変良い 2 良い 3 普通 4 悪い 5 大変悪い

Q10 「とさてらす」にどのような機能があれば、さらに便利になると思いますか。

- 1 当日のイベントやみどころなど地域の旬の情報やおトク情報をリアルタイムに知ることができる
2 ベンチやテーブルなど休憩できるスペース
3 携帯充電器やロッカーなどの観光客の利便性を高める設備
4 その他()

☆☆ 調査内容は以上です。ご協力、ありがとうございました。☆☆